

SSKA

東腎協

2001年4月22日

No.137

東腎協第29回総会議案集



東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・☎170-0005 豊島区南大塚2-38-1 一橋ゼミナール新本社ビル6階
郵便振替口座 00150-0-128390 ☎03-3944-4048 FAX03-5940-9556
E-mail touzin@msj.biglobe.ne.jp <http://www.normanet.ne.jp/~touzin/>

東腎協第29回

総会 次第

開会あいさつ

議長団選出

会長あいさつ

〈報告事項〉

活動報告、決算報告

監査報告

〈審議事項の提案〉

活動方針案、予算案

スローガン案

総会宣言案

新役員選出

閉会のあいさつ

〈総会終了後、記念

講演〉

第29回総会のご案内

東腎協規約第六条により、第二十九回総会を左記の通り総評会館において開催します。

会員・家族のみなさんも、お誘い合わせてご参加ください。

記

日時 2001年4月22日(日) 午前10時開場
次第 第29回総会(午前10時30分から)
記念講演(午後2時30分~3時40分)

「21世紀 賢不全治療の展望」

—合併症とその予防—

講師 秋葉 隆

(東京女子医科大学教授)

会場 総評会館(千代田区神田駿河台3-2-11)

TEL 03(32553) 1771(代)

FAX 03(32553) 1765

*総会は午前10時30分から行われますので、参加者には昼食を用意します。

*CAPDバッグ交換のための小部屋を用意してあります。

参加者はこの講案集を必ずご持参ください。

〈交通〉

・営団地下鉄千代田線新御茶ノ水駅(最寄り)

・都営地下鉄新宿線小川町駅

・営団地下鉄丸の内線淡路町駅

・3線とも地下道でB3出口からすぐ

・JR御茶ノ水駅・聖橋出口5分
利用できませんので公共交通機関でおいでください。

〈駐車場〉

利用できませんので公共交通機関でおいでください。



秋葉 隆教授



11000年度活動報告

一、はじめに

東京都は、景気停滞の税収不足などにより財政が行き詰まったとして、これまでの知事が手をつけなかった福祉施策を大幅に圧縮してきました。

特に、私たちがもつとも身近に利用している心身障害者（児）医療費助成（マル障）は、自己負担が導入されるなど、大きく後退しました。また、「腎臓病を考える都民の集い」や「臓器移植推進キャンペーン」の経費は今年度も予算化されませんでした。

東腎協は国会請願募金などを積み立てている特別会計から、一五〇万円を支出してこれらの事業を継続してきました。東腎協は一九九九年、会員皆さんの同意を得て、会費を値上げしました。また、国会請願募金の配分も貴重な財源と

なっています。こうした健全財政により事業が継続できたことは評価できます。

今年度はマル障問題、無年金障害者問題、EPO訴訟、臓器移植推進キャンペーン、腎臓病を考える都民の集いなど活動が多様化したこと、他団体やボランティアとの連携がより強まったことがあげられます。

今後、医療・福祉をめぐる厳しい時代に、東腎協活動は社会的にもますます大きな意味を持つてきます。そうした期待に東腎協はどいう応えるのか、二一世紀に向けた大きな課題です。

以下に今年度の主な活動と成果を報告します。

二、主な活動と成果

1、全国的な活動について

(1) 医療費について

昨年四月一日から診療報酬が改定されました。血液透析の診療報酬では「人工腎臓」(処置料)一例

「外来で四時間以上五時間未満」は二一〇点)はすべて据え置かれました(一点〇〇円)。しかし、外来透析患者の「慢性維持透析患者外来医学管理料」(一か月単位の定額)は二九〇点から二八〇

〇点に引き下げられたうえ、さらに二つの検査項目が包括されました。また、ダイアライザーの価格が三五〇円から六五〇円の幅で引き下げられました。薬価も引き下

げられ、透析医療費は全体として引下げになりました。

また、老人保健法などが一月一日から改悪され、高齢者の患者負担が定額制(外来一回五三〇円で一か月四回まで、入院一日二二〇〇円(月額上限三万五四〇〇円))から一割の定率制となり、大幅な負担増となりました。

なお、透析の「月一万円上限」は今回の改定でも変更はありませんでしたが、一部負担のマル障を利用している人が透析以外の医療を受けたときには老人保健と同様の負担となります。

(2) 海外透析に国保も支払

本年一月一日から、国民健康保険に海外療養費制度が創設され、

国保加入者も海外で透析などの医療を受けた時、申請により医療費の一部が還付されることになりました。これまで、国保だけに認められていなかったもので、長年の私たちの運動が実りました。

(3) EPO訴訟に支援を

エリスロポエチン製剤の保険請求の減点、却下問題をめぐり神奈川県田園腎クリニック・中井洋院長が昨年四月二三日、横浜地裁に神奈川県国民健康保険団体連合会を被告として提訴しました。

神奈川県はEPOにかかわる保険点数の査定が厳しいといわれ、神奈川県腎友会の調査では昨年四月以降国保で二七五件、社保で一〇六件が請求を却下されていることがわかりました。特にヘマトクリット三〇％以上の患者さんに投与したエリスロポエチンは「過剰投与」「不適当不必要」としてことごとく却下されています。

中井洋院長は「ヘマトクリット値三〇％以上の患者にもEPOを使うことは医学的にも必要ないこと、それを認めない神奈川県国民健康保険団体連合会の査定は違法」と減点査定された診療報酬の

支払を求めて、横浜地裁に提訴したものです。

これまでこの裁判を支援してきた神奈川県腎友会などが中心となつて六月二三日には「EPO訴訟を支援する会」が結成され、糸賀会長も呼びかけ人の一人になっています。また、一〇月二二日に開催された全腎協第一三回通常総会ではEPO訴訟に対し、全国的な支援を決定しました。

これを受けて東腎協は一月二日の第二四回常任幹事会での裁判の結果は全国の診療報酬審査に大きな影響を与えるものであり、透析患者全体の問題として支援の輪を広げることを改めて確認し、一二月には各幹事宛、「EPO訴訟を支援する会」への入会のお願ひ文を発送しました。

その結果、三月二日現在、二八病院腎友会などから二七一口、二七万一〇〇〇円が集まっています。二月二六日には神奈川県腎友会の担当役員があいさつに東腎協事務局を手渡し、その際に二七万一〇〇〇円を渡しました。

既に東腎協は、昨年五月二三日に開かれた第一回口頭弁論に役員二人を派遣するなど、これまでの

公判や報告集会に積極的に参加してきました。この裁判は長期化することも予想され、会員一人一人が自分自身の問題として、支援の輪を広げていくことが望まれます。

(4) 透析患者二〇万人に

迫る

日本透析医学会は昨年六月一日、一九九九年末現在の透析療法に関する統計調査結果を発表しました。慢性透析患者数は一九九七年二一三人で九八年末に比べ二万八九一人（六・四％）増加しました。導入患者の原疾患は糖尿病性腎症が最多で三六・二％と比率が拡大し、次いで慢性糸球体腎炎が三三・六％です。導入患者の平均年齢は六三・三八歳と九八年末より〇・六八歳上昇しました。最長透析歴は三年です。なお、全腎協の会員は昨年一〇月で一〇万八九九人と結成二九年で初めて一〇万人を突破しました。

(5) 脳死臓器移植の実施

一九九九年六月の四例目から途絶えていた脳死臓器移植が、約九ヶ月ぶりに動き出しました。五例目となる臓器の提供は昨年三月二

九日、駿河台日大病院に入院していた二〇代の患者さんからで、これまでの症例で情報公開がプライバシーの保護か、大きな問題として浮かび上がりましたが、今回は提供者のプライバシー確保が優先され、性別や脳死に至った経緯などは公表されませんでした。

その後、四月一日には秋田県の由利組合総合病院で、四〇歳の女性の患者から（六例目）、四月二五日には杏林大学病院の五〇代の女性の患者さんから七例目となる臓器提供がありました。運転免許証に貼られた意思表示カードでの提供ははじめてのケースでした。

八例目は七月八日に福岡県の福岡徳洲会病院での一〇歳代後半の女性から臓器提供がありました。九例目は一月四日、北海道函館市の市立病院に入院していた女性から、一〇例目は本年一月八日、昭和大学病院で脳死と判定された三〇代男性から提供されました。

そして、本年一月二日、川崎市の市立川崎病院で、脳死と判定された五〇代女性から提供を受けた心臓などの臓器移植が行われました。臓器移植法に基づく脳死移植の一一例目でした。このような

経過で脳死移植は一九九七年一〇月の臓器移植法施行三年余でようやく一例になりました。一〇例までに臓器を受け取った患者は、計三九人で、心臓七人、肺四人、肝臓九人、腎臓一人、脾臓と腎臓同時が二人、角膜二人という内訳になっています。

旧総理府が昨年五月に実施した世論調査によると臓器提供の意思表示カード所持者は、全国民一〇人に一人にあたる九・四％で、約一千万人にもはつているといえます。また、臓器移植ネットワークの分析によれば同法施行から昨



全腎協鹿児島大会 (2000.5.28)

年七月までの記録を分析した結果、カードが提示されなかつた例が二三五件で、このうち一五四件(約六六％)は、病院からの連絡が遅く、すでに心臓が停止していたそうです。残りの一四一件(約六〇％)は、臓器提供が可能と国が指定した病院以外の施設に入院していた患者だったとのこと。

こうした結果から、今後は意思表示カードの普及とともに、脳死移植の実施に向けた条件整備が必要と思われれます。

また、脳死臓器移植法施行後、



青年部ボウリング大会 (2000.6.18)

腎臓移植が減少していることは、私たちにどうして見過ごすことはできません。今後の活動のあり方を検討することが必要です。

(6) あいつく

透析施設における

医療ミス

一九九九年五月に兵庫県加古川市の透析施設で肝炎ウイルスの院内感染によるB型肝炎で六人が亡くなるという痛ましい事件があり、私たち透析患者に大きな不安をもたらせました。

今年度に入ってから五月に浜松の病院で一人がC型肝炎に感染、九月には同じ静岡の下田市でも二人がC型肝炎に感染し、院内感染が強く疑われています。

一〇月には福岡市の人工透析専門病院で五人、千葉市花見川の病院でも透析患者八人がC型肝炎に感染するなど、透析施設での院内感染事故は後を絶ちません。

さらに、千葉県東金市の県立病院で昨年五月二五日、透析終了後の抗生剤の点滴で患者の血管に大量の空気が混入し、患者が死亡する事故がありました。

兵庫県加古川での死亡事故を重

く見た厚生省は昨年二月、「透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニユアル」を発行し、全国の透析施設におけるウイルス肝炎の院内感染防止の具体的な指針を示しました。

事故発生には各自自治体などが「事故調査委員会」を設置して原因究明を進めていますが、感染源や経路の特定できないケースも多く、私たち患者の不安は増すばかりです。患者の立場から事故例や、厚生省の「マニユアル」が生かされ、安心して透析が受けられるよう働きかけていくことが必要です。

(7) 国会請願運動について

全腎協の「腎疾患総合対策」の早期確立を要望する第二九次国会請願行動は昨年三月二三日に行われ東腎協で集めた五万五千二百一人の署名を含め九万九千六百二十二人の署名簿を二六八人の国会議員に提出しました。しかし、この国会請願は六月の衆院解散で「審査未了」とされてしまいました。

そこで全腎協は一月一六日、理事および各県の会長の署名による先の請願と同一内容の請願書を、理事と関東ブロック役員らが衆院

の厚生委員会・参院の国民福祉委員会に再提出しました。請願は二月一日、参議院で採択されましたが、衆議院では審査未了とされました。

今年度分の第三〇次国会請願の東腎協の署名・募金は三月二日現在、全腎協分が六万五〇〇一人、JPC分が五万二六七一人で募金額は三八二万七千六百四十二円であり、その内一二二万四〇〇〇円を三月一二日に全腎協宛送金しました。

また、請願行動は三月二日(木)行われ、東腎協からは役員ら一人が参加し、衆参両院の二人の国会議員を訪ね、請願書の院への提出をお願いしました。

JPC(日本患者・家族団体協議会)は一月一八日、衆院の解散で六月に請願できなかつた「総合的難病対策を求め」国会請願を行いました。請願は残念ながら衆参ともに不採択でした。今年の請願は六月に行う予定になっていました。

(8) 有珠山噴火被災者への募金運動

北海道の有珠山は三月三十一日

噴火、道腎協の伊達地方腎友会、室蘭地方腎友会の会員が被災しました。東腎協では五月より募金活動に取り組み、会員皆さんのご協力を得て、募金額は一七万一千八百六円に達しました。このうち送金手数料六千四百〇〇円を引いた一六万三千二百六円を二度に分け、八月七日までに全腎協へ送金しました。

北海道腎臓病患者連絡協議会(道腎協)の報告によれば、全腎協から寄せられた義捐金は一五九万八千四百六十五円でこのうち被災者および二つの透析施設への見舞金として七十三万円、事務費等二二万六千五百九円、伊達腎友会災害基金積立六八万一千五百一円が消費されています。

残金七十八万九千五百円について、伊達腎友会から道腎協へ災害基金として預託され、道腎協は四〇〇万円を道腎協災害基金(有珠山義援基金)とし、残金三八一万九千五百円を全腎協の災害基金設立時に寄付することになりました。

災害時の募金については、全腎協の呼びかけで全国的に取り組んできましたが、募金の使い方については各県の判断に委ねられてきました。したがって、例えば同じ

程度の被害にあつても、その時の募金額や被災者件数などの条件で見舞金は異なり、募金をいたたく立場からも、募金した側からもすつきりしない思いがありました。そうした状況もあつて、全腎協では五〇〇万円をめざして災害基金制度の創設が検討されています。

2、東京都に対する要請活動

(1) 予算要請活動について

昨年六月二九日、二〇〇一年度東京都予算に関する要請を行いました。要請先は、衛生局など四局、一庁、一室で、東腎協からは糸賀会長ら一〇人が出席しました。各局への主な要請内容と回答は次の通りです。

〔衛生局〕

「腎疾患総合対策の確立」についての要望で、これまで独自の組織だった東京都腎不全対策協議会が、新たに設けられた「特殊疾病対策協議会」の一部として再編されたことを突然聞き、腎不全対策

まで通り」で変化のないことを確認しました。

「腎臓提供者確保体制の確立」では意思表示カードの広報活動のため「広報・東京都」に掲載したこと、移植コーディネーターを東京医大八王子医療センターに配置したことなどが報告されました。

災害対策では、島しょで起きている地震については、特に三宅島の状況は三人のCAPD患者(うち一人は入院中)がいるが、無事であることを確認しているなどの報告がありました。

〔福祉局〕

心身障害者医療費助成(マル障)の改善について、特に新規六五才以上の人は、非課税者も対象からはずされていることを指摘し見直しを求めましたが、六五歳まで健康できたことや都財政の悪化でやむをえない、との回答でした。

「障害者施策での通院移送サービス」については、現在のホームヘルプサービス事業の活用など運用の中で見直して行きたい。また、東腎協とも協議の場を設けるとの回答がありました。

〔総務局〕

「都における身体障害者の雇用



東部ブロック交流会 (2000.6.25)



中南部幹事代表者会議 (2000.6.25)



都庁要請 (2000.6.29)



北部交流会 (2000.7.20)

率及び年齢制限の引き上げ」について、障害者の別枠採用は、昭和五十六年度に「都における身体障害者雇用に関する基本指針」にもとづいて実施している。平成二二年度の採用は二八人と昨年より減少しているが、雇用率三%に向けて努力している、との回答でした。

〈労働経済局〉

職業安定行政は平成二二年四月一日より、都から「東京労働局」に分離され、国に一元化されたため、都の業務役割は障害者の援助部門として重度障害者雇用事業所の設立、運営、指導や職能開発を

行うこと。障害者雇用支援として企業内の福祉厚生指導を行っていくことに限定された、とのこと。なお、東京労働局には別の機会に要請することとしました。

〈教育庁〉

「児童・生徒に対する学校検尿による腎臓病の早期発見と、学内の予防と管理を徹底して、ごさい」との要望については、学校検尿で、腎臓病と診断がついたら「腎臓病管理指導表」にもとづいて主治医と協力して指導に努めている。今後とも児童、生徒の早期発見、早期治療に努める、との回答でし

た。

〈高齢者施策推進室〉

「老人医療センター並びに多摩老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置してください」との要望には、老人医療センターは外来透析は受け入れていない、実績は、板橋が延べ四〇人で八一八回、多摩は延べ三七人で八八六回とのことでした。

「高齢者福祉・医療の複合施設の建設」に関する要請には、同施設は痴呆症を中心とした高齢者の施設で、緊急の腎不全（透析）の人は対象になるが、一般の透析患

者は受け入れないとの回答でした。「介護保険のなかに、透析患者の通院移送サービスを組み込んでください」との要望にも、透析患者の移送サービスは、福祉局とも一緒に話し合いを持ちたいとの回答でした。

(2) 都議会に対する要請

東腎協は都庁各局へ提出したものと同じ内容の要望書を都議会各会派へ要望しました。

特に一〇月一二日に共産党・公明党、一九日には民主党のヒアリングがあり短い時間でしたが、議

員と懇談しました。また、自民党などヒアリングの案内のない会派へも一〇月一九日にそれぞれ政調会事務局を訪れ、応対の事務局員に要望内容を説明しました。

また、マル障改悪問題で、昨年二月から三月に開かれた平成一二年度第一回定例会の厚生委員会を三回にわたり延べ五人の役員が傍聴し、審議の状況を見守りました。

(3) 東京都の医療費

助成制度の

改悪に関する活動

心身障害者医療費の助成制度（マル障）および東京都医療費助成制度（マル都、マル特）が九月から改悪されました。東腎協は昨年度より必死の抵抗運動を展開し、外来透析については、所得、年齢に関わらず今までどおり、自己負担なしで治療を受けられるようになりました。

しかし、マル都・マル特で受けられる医療は「人工透析を必要とする腎不全」に限られ、手根管症候群などの透析合併症については対象外との当局の見解です。また所得制限にかかったり新規で六五才以上の人のように、マル障が交

付されない場合、透析以外の医療費は、健保本人で健常者と同様二割負担、新規六五歳以上の人は老人保健で一割負担となります。

また、マル障を持つていても自己負担のある受給者は「老人保健に準拠」するので、本年一月一日から施行の改正老人保健法により大幅な負担増となりました。

年々締め付けが厳しくなる透析医療費、そして受益者負担の方向さらには、私たちにとつてもっとも危険なのは、貧富による医療の差別化です。今後の国の動きには十分注意していくことが必要です。

3、第二〇回臓器

移植普及推進

全国街頭

キャンペーン

全腎協の「第二〇回臓器移植普及推進全国街頭キャンペーン」が一〇月八日を中心に全国五四〇か所に会員など約一万一〇〇〇人が参加して実施されました。

東腎協では①JR池袋駅東口富士銀行前②JR新宿駅小田急ハルク前③上野公園④JR立川駅南口及び北口路上の四か所に会員など

二三人が参加、道行く人に三万枚の臓器提供意思表示カードを手渡し、移植のための臓器提供、腎臓提供への協力を呼びかけました。

今回はティッシュに意思表示カードを組み込んだことで、受け取りやすくなったこともあって、短時間に既定セット数を配り終えたところも多く、来年は配布枚数を倍増したら、との提案もでした。

また今回は、東京都衛生局のほか東京肝臓友の会、ライオンズクラブ、地域ボランティアなど多くの方々の協力が得られました。

なお、当日は江戸川区民まつりの会場でも東腎協役員が意思表示カードを二〇〇〇枚配布して区民への臓器提供をお願いしました。

後日、愛知腎友会でも一〇〇〇枚を配布しました。

4、第一三回「腎臓病

を考える都

民の集い」の開催

「腎臓病を考える都民の集い」は東腎協の結成一五周年を記念して、毎年開催してきました。しかし、昨年度は東京都の財政難で予算化されず、また、東腎協も準備

不足で開催ができませんでした。今年度は当初から東腎協独自の開催をめざし準備を進めてきました。今回は糖尿病性腎症からの透析導入が激増していることから、サブタイトルを「糖尿病のなご怖い、透析になったらどうしていいの」として二月四日、池袋の豊島区民センター文化ホールで開催しました。

出席者は二七九人収容の会場の満席に近い二七〇人の盛会でした。当日は、松村満美子さんの司会ではじめられ、糸賀会長の主催者あいさつに続き来賓として都衛生局特殊疾病対策課長・中西好子さんからお言葉をいただきました。

第一部は講演「糖尿病性腎症とうまくつきあうために」と題して順天堂大学腎臓内科教授の富野康日己先生、「糖尿病性腎症での透析のつきあい方」と題して同腎臓内科講師の福井光峰先生に講演をお願いしました。その後三遊亭歌奴師匠の体験発表「糖尿病から透析になって」と続きました。

第二部はパネルディスカッションでパネラーは第一部で講師を務めた富野先生、福井先生、歌奴師匠に糖尿病性腎症保存期の患者さ

んである百瀬春三さんにも加わっていただきました。

また、ロビーでは医療相談、栄養相談、生活相談が行われ、二人が相談を受けました。

今回は後援団体として東京都、豊島区、北区、練馬区、(社)東京都医師会、(社)日本透析医学会、(社)日本透析医学、(財)腎研究会、(社)日本臓器移植ネットワーク、三多摩腎疾患治療協会、ライオンズクラブ国際協会三三〇―A地区、(社)全国腎臓病協議会、東京難病団体連絡協議会の二三団体、協賛団体としてバク

スター(株)の協力を得ることができました。

また、本格的なボスターやプログラムを作り保健所や医療施設に掲示をお願いしたり、朝日・読売などの新聞、NHKテレビなどにも広報を掲載してもらうなど事前の活動が盛会に結びつきました。

5、第二八回総会の

開催

東腎協の第二八回総会は昨年四月二三日、お茶の水の総評会館で開催し、会員・家族ら二九五人が

参加しました。

議事終了後の記念講演は、「透析の自己管理と検査データ」と題する東京医科大学人工透析部長・中尾俊之教授の講演を聴きました。

6、会員交流会の

開催

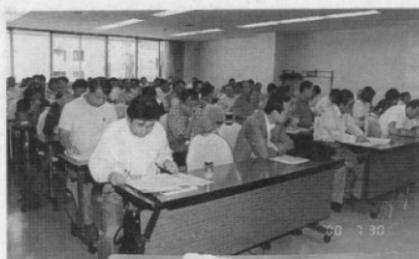
個人会員を対象とした会員交流会を昨年一月一九日(日)午後、お茶の水・総評会館で開催しました。参加者は五九人でした。

第一部の学習会では、鶴田クリニクの鶴田先生をコメンテーター

に、透析合併症と検査データの見方を分かりやすく解説したビデオで学習しました。鶴田先生からは、会員の日々の透析医療の疑問点に、豊富な臨床経験に基づいた明快な回答をいただき、出席者に大好評でした。

第二部は懇談会を行いました。今回は東腎協に対する希望・意見も少なく、個人会員の対応について従来どおり運営して欲しいとの要望ができました。

7、ブロック活動



多摩部交流会 (2000.7.30)



地域腎友会交流会 (2000.8.6)



東糖協役員との懇談 (2000.8.24)



第45回幹事会講演 (2000.9.17)

●区中南部の活動

一昨年四月より東京都は、石原知事が誕生、都政を担い、都の財政状況が極めて厳しいことから同年七月、「財政再建推進プラン」を発表、九月には「福祉施策の新たな展開」を打ち出し、心身障害者医療費などの福祉施策の見直しを発表しました。

こうした中で区中南部は六月二十五日、南大塚社会教育会館に於いて三七名が参加。マル障改悪に対する東腎協の取組みを話し合いました。

また、一月二六日に東腎協の組織強化のため、会員拡大をテーマとした代表者会議を事務所で開催、一七人が出席しました。また、本年一月二日には江戸川船堀の東京健康ランドに二一人が集い、お風呂に入り、食事をしながらカラオケで楽しい一時を過ごしました。

●区北部の活動

上期の交流会として七月二三日、「東腎協の活動報告と今後の予定」と、「医療費助成制度（マル障）改正に伴う、マル都、マル特の申請手続き方法の説明会」を区

立大塚社会教育会館で開催し、五人が参加しました。

また下期の交流会として、二月三日「幹事及び役員会」（二十九人参加）を開き、現在までの組織の内容等に対して、忌憚のない意見交換を行いました。特に患者会に対しての無関心派対策等、これからのブロックの課題は多いようです。

●区東部の活動

六月二十五日に江戸川文化センターにおいて、一〇八人の参加者でマル障改悪に伴うマル都の手続き、全腎協・東腎協の今後の取組みと状況推移について学習交流会を開催しました。また一〇月二十九日、船堀の江戸川総合区民ホールで、薬剤費一部自己負担問題を学習しました。その後「透析をはじめ人のためのガイドブック」をもとにデータ、合併症、外国でのダイアライザー再使用の問題など学習しました。続いて、各患者会の意見、要望など、一問一答白熱した話し合いが行われました。

今年になって一月二日、幹事・患者会役員交流会を東腎協事務所で開き、二〇人参加しました。

当日は事務所見学や多様な事務局の仕事内容を説明し、今後の協力をお願いしました。また、マル障制度復活の運動の報告もしました。後半は「北の家族」で、顔合わせ交流を行い、今後の協力をお願いしました。

●多摩部の活動

多摩部の幹事会を六月四日に東腎協事務所で開催、二〇〇年度の活動内容について協議しました。また、各市の福祉関係行政との接触を積極的に行うことを申し合わせました。

七月三日には、国分寺勤労福祉会館で、マル障問題を勉強しました。当日は満員の八四人が参加して大変有益な学習交流会となりました。レクリエーション交流会は一月五日、バスで町田市の飯山温泉を訪ね、くつろぎながらの交流の後、「宮が瀬ダム」観光で充実の一日でした。

四〇人の会員が参加しました。

8、第三回地域腎友

会交流会

地域腎友会の交流を深めるとと

もに、新たな地域での組織化をめざして、第三回目の交流会を昨年八月六日、豊島区南大塚社会教育会館で開催しました。

参加者は都内の地域腎友会五組織（荒川、板橋、江戸川、江東、練馬）の内、荒川を除く四つが参加しました。また、各患者会からも地区腎友会設立を目指す会員が参加し、合計三九人になりました。内容は「板橋通院サポーターセンター」さくらの会」がテレビ大阪の番組「ボランティア21」で取り上げられ、そのビデオを鑑賞しました。交流会では、各地域腎友会からの活動報告を行い、今後の参考となりました。

9、学習交流会につ

いて

今年度の学習交流会は昨年九月一七日、第四回幹事会終了後に、文京区民センターで開催しました。今年度は肝炎の院内感染や、透析後の点滴操作ミスなどで透析患者が亡くなるなどの医療事故が相次いで発覚しました。

このような中で、私たち患者も医療スタッフに任せきりの治療で

はなく、自己管理の上からも、医療事故防止の上からも、患者として治療に参加することの必要性を感じました。

そこで、「透析の仕組みとトラブル対策」をテーマに虎の門病院で長期にわたり、血液浄化療法に取り組んできた柴田猛氏に講演をお願いしました。

反省点は、当日はスライドプロジェクターの調子が悪く、せっかく勉強に來られ、長時間参加していただいた会員の皆さんに迷惑をおかけしたことです。機会があれば今後もこのようなテーマの学習

会を企画したいと思っています。

10. 委員会活動に

ついて

教宣委員会は、九月の学習交流会では、「透析の仕組みとトラブル対策」をテーマとして、虎の門病院の柴田透析室長の講演を企画しました。

また、都各局への要望事項で課題となっていた、多摩南部地域病院を訪問し、透析ベッド増床と、運営協議会を交えた三者会議を開くようお願いしました。また、昨



多摩部臓器移植キャンペーン (200.10.8)



北部臓器移植キャンペーン (2000.10.8)



東部臓器移植キャンペーン (2000.10.8)



東部ブロック交流会 (2000.10.29)

年度東京都の予算が付かず開催できなかった「腎臓病を考える都民の集い」を「糖尿病のなごら怖い、透析になったらどうしたらいいの」をテーマに企画しました。実現はできませんでしたが、この開催については東糖協会長とも共催などの話し合いをしました。

編集委員会は年度当初、四月二三日の総会までに会員が読むことできるように、第二八回総会議案集を発行しました。総会の記念講演案内に参加呼びかけ文は今年度も掲載して、三〇〇人に迫る参加者を得ることができました。また、

年四回の機関誌「東腎協」の定期発行を成し遂げました。その内容は特集を中心に、会員のQOL(生活の質)を高めることに貢献することができました。「腎臓病を考える都民の集い」は二月に東腎協の主催で開催することができました。したがって、報告集は来年度に発行の予定となりました。

会員拡大・交流委員会は、六月一日開催した委員会①未組織病院への訪問②加入率の低い患者会③新設・増床施設への対策④個人会員三人以上の病院⑤活動衰退病院へのてこ入れなどについて話

し合いました。また個人会員交流会を二月十九日開催しました。二月には、会員拡大ポスター五〇〇枚を作成し、各患者会などに配布しました。

このところ、病院腎友会の役員が長期透析の合併症などで会の運営ができず、やむなく解散に至るケースが多くなっています。東腎協の役員も同様で、未組織病院への訪問も実際に動ける役員が少なく、当初の計画どおりに実施できませんでした。結果的には作年度末の会員数六、九五二人が今期末は七、一一八人で、この一年間に一六六人の会員増でした。

災害対策委員会の活動としては、六月一七日に高田馬場・大正セントラルホテルで開かれた第八回関東プロテック災害対策推進委員会に四月出席しました。

また、九月一日に三多摩腎疾患治療会主催による、講演会が開かれ、東腎協から二名参加しました。この会では、三多摩地区災害時透析ネットワークの基本構想が発表されました。

二月一九日には東京都が平成九年に作成した「災害時における透析医療活動マニュアル」が改定さ

れることになり、災害対策委員四名が出席して、特殊疾病対策課の担当者と話し合いをしました。

二〇〇〇年は有珠山の噴火に続いて三宅島の噴火では大きな被害が続出し、現在も多くの方が避難生活を余儀なくされています。

三宅島の噴火については八月一日、都総務局災害対策部を訪問し、被害状況や透析患者の避難状況について話し合いました。

11、渉外担当

平成一二年度は、都が平成一一年度で作成した「財政再建推進プラン」に基づいて、マル障やマル都、マル特の改悪を推進した初年度です。

このため、渉外部は平成一一年度後半から一二年度はじめにかけて、改悪反対の署名活動や都庁への座り込み等、会員のご協力を得てこの運動に集中しました。

その結果、マル都、マル特の当初案であった医療費の一割患者負担を撤回させる等の成果はありましたが、マル障の有料化等は残念ながら九月一日から実施されることになりました。

このため、マル障からマル都、マル特への変更手続きが必要となり（医療費負担を回避するため）昨月中旬にはパンフレットの作成や説明会を開催して会員への徹底を図りました。

以上の他、渉外部は平成一三年度都予算につきまして、六月に都庁各局と、さらに一〇月に都議会各党に対し、医療費助成等の見直し反対の要請を行っております。これらの運動に加えて、一一月には「通院介護サービス」の介護保険での実施に向けて、福祉局と

第一回目の協議を行いました。さらに二月二七日、都庁職主催の「都立病院改革問題を考える」にシンポジストとして参加し、都立病院への透析装置の増設と、災害対策の拡充を訴えました。

現在一六ある都立病院のうち透析施設のある病院は九病院で、透析装置は全部で六三台しかありません。都内の透析患者は約二十万人でその通院先は、診療所・クリニック五二％、私立病院（含む私大病院）三二％、国公立病院（含む国公立大病院）四％、その他（含む無回答）一三％となっています。

このような現状では災害発生時

には対応できません。特に透析患者の半数以上が通院している診療所・クリニックは、構造上、災害時の対策が不備と考えられるだけに、なおさら深刻な問題です。この問題については、今後とも機会あるごとに都と折衝していく必要があります。

平成一二年度は、渉外部にとりまさに「多事多難な年」でありました。今後とも会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

12、青年部の活動

について

本年度の青年部の活動は、青年部主催の三回の交流会の開催、全腎協及び関東プロテックでの青年交流会への参加、腎臓病キャンペーン、腎臓病を考える都民の集いの協力など、意欲的な活動を行いました。

昨年六月に開催した、第一回交流会のボウリング大会では、五四人が参加し白熱したゲームを繰り広げました。

一月五日の第二回目の交流会「透析食料講習会」は、二二名が集い、肉じゃが、和風サラダの

調理に取り組み市販の食品との味の違いを実感しました。

第三回目交流会「青年部新年会」は、一月二八日に池袋・日本料理「高松」に三四名が参加し、

親睦を深め、盛況に終わりました。

全腎協主催で八月二六日、二七日に愛媛県、奥道後で開催された「全国青年交流会」には、東腎協より三名が参加し、グループ討議、共同作業などで活躍し、他県の方々と交流を深めました。

十月二八日、二九日に、埼玉県大宮市で開催された、関東ブロック青年交流会には、九名が参加し



青年部料理講習会 (2000.11.5)

埼玉県友会会長による講演「会活動」を拝聴した他、交流会での他県の方との情報交換など、有意義な活動となりました。

また、二〇〇〇年四月から下高編集委員が維持管理していた東腎協のホームページを二〇〇一年四月からは青年部が担当することになりましたので、そのための学習をはじめました。

本年度の青年部活動も、多くの会員の皆様に支えられ、新しい仲間、協力者を増やす事ができました。平成一三年度も、東腎協の一員としての役割を担えるように、



多摩部交流会 (2000.11.5)

青年部一同、努力していきます。

13、機関誌「東腎協」の発行

機関誌「東腎協」一三二号「第二八回総会議案集」を四月に発行、一三三号を五月に発行しました。

一三三号の主な内容は平成二二年度から改悪された心身障害者医療費助成制度の問題を①特集／「後退した都の福祉施策」として掲載し、②わたくしたちの危機に際し、過去最高の二九五五人という参加者を得た第二八回総会報告、③平成



個人会員交流会 (2000.11.19)

一一年の一〇月号No.一三〇から開始して、会員の自己管理に再認識を与えた医学入門講座の最終回の六／「カルシウムとリンのコントロール」について、北岡建樹先生などでした。

一三四号は七月に発行し、内容は①特集Iとして総会記念講演「透析の自己管理と検査データ」②特集II座談会「透析者、私が結婚を決めたとき」を連載記事のほかに提供しました。一三五号は、一〇月の発行で最近、急増している頸椎、腰椎の透析アミロイド症について特集し、日本赤十字社医



国会講演 (2000.11.20)

療センターの真光雄一郎先生の「透析に伴う脊椎疾患」を患者の手術体験記とともに掲載し、多くの会員の参考となりました。

新年一月発行の二一三六号は新春座談会として、青年部の幹部による「二一世紀を迎え、東腎協の明日を語る」を掲載し、世代間を超えた会活動の明日を示すものとして、力を発揮しました。

14、全腎協活動への参加

● 准看護婦制度反対署名

昨年三月、全腎協より依頼のあった日本看護協会の「准看護婦の養成を停止し、看護婦養成制度の一本化を求め、署名活動に取り組み、一四四〇人分の署名簿を全腎協を通じ提出しました。この時期東腎協は、福祉制度の改善に反対する都議会請願、全腎協・JPCの国会請願署名・募金運動に全力を投入した直後で、三度の署名運動には各患者会の負担が大きく重なるということで慎重に討議されましたが、看護婦養成制度を一本化することにより、看護サービスの資質が上がるのが期待できる

という本署名の主旨に賛同し、署名運動に取り組みました。

● 二〇〇〇年度全国大会 (鹿児島大会)

全腎協は昨年五月二八日、鹿児島市民ホールにおいて第四回目となる全国大会を開催しました。参加者は一三三八人で、東腎協からは一人が参加しました。

今回の大会でも昨年の京都大会に続き「患者の訴え」として、「不利」乗り越えて就職！が、就職困難の中でも夢見ていきる！が、そして東腎協の幹事でもある長坂さん(境南クリニック)から「どうすればいい？介護保険」との患者三人の発表がありました。

また、今年の日記講演は済生会八幡総合病院の中本雅彦先生より「透析三〇年限界説」への挑戦」と題する講演がありました。午後からは七つのテーマ別分科会が開かれ、東腎協からの参加者は役割分担をして、各テーマに分かれて参加しました。東腎協選出の全腎協理事は分科会の司会や担当理事として活躍しました。

● 関東ブロック会議

第四七回関東ブロック会議は七月一日から二日にかけて栃木県・鬼怒川で開かれ、東腎協から六人が参加しました。

一日目の会議では、通院介護支援事業や、自治体の医療費助成見直しについて、内容や反対運動の経過などを報告しあい経験交流しました。

また、千葉県からは、県立東金病院での透析患者の死亡事故、神奈川県からはEPO訴訟の内容について詳しく報告されました。

二日目は①介護保険問題②組織強化③情報の伝達についての三分科会に分かれ、それぞれ活発な討議が行われました。

今年度二回目となる第四八回関東ブロック会議は二月九日と一〇日の二日間にわたって千葉市・ホテルポートプラザで開かれ、東腎協からは六人が参加しました。一日目は全腎協や各県から報告があり、全腎協からは、EPO訴訟の経過と第一回災害対策基金委員会が開かれ、案として自然災害に対する会員への見舞金として五千万円を目標に基金制度を作りたいとの提案があったことが報告されました。

また、長年関東ブロック担当の理事を務めた東腎協の一ノ清副会長が辞任するに伴い、来年度から千葉の中村会長がその任に着くことが決まりました。

● 初めての「通院介護支援事業交流会」が開かれる

全腎協初の「通院介護支援事業交流会」が二月二一・二三日、チサシホテル浜松町で開催されました。この会には既に事業を実施している二四団体とこれからの実施を検討している一七県組織から計六一人が参加しました。

全腎協加盟の団体が初めて通院介護支援事業を開始して四年あまりが経ち、実施団体も全国で二八団体に広がりました。その中には行政の手厚い支援を受けている団体も少数ありますが、多くの場合は公的助成がなかなか受けられず、事業環境の厳しさが上げられ、活発な議論が繰り広げられました。

● 相談員研修会

各県組織の事務局長、相談員などを対象として毎年開催されている相談員研修会は昨年七月八、九日の二日間にわたって品川プリン



和田宗春議員（左）と衛生局との話し合い



中南部幹事会（2000.11.26）



北部幹事会（2000.12.3）



腎臓病を考える都民の集い（2001.2.4）

ホテルで開かれ、東腎協からは二人が参加し、介護保険制度への取り組みを中心に学習しました。

15. 事務局体制強化と財政対策

今年度も東腎協事務局は三人の専従を中心に、一〇人ほどの常任幹事の自発的な勤務により、多様化、活発化する活動に対応してきました。しかし、平均年齢も確実に上がり、長期に安定的な事務局運営を続けるには、若くて元気で患者会活動に熱意ある人を見つけ

ることが、求められています。七〇〇〇人もいる会員のうち必ず次代を背負う人がいるはずですが、ぜひ東腎協役員として推薦くださることを期待します。

財政面では昨年度の会費値上げ理由の一つである専従役員採用に適当な人材を見つけることができず、予備費がそのまま残り二〇〇一年度への繰越が三八〇万円余りとなりました。

ただ、最近、役員の方の病気の重症化などで、会の運営が困難になり会費の納入が遅れる会も増えていきます。会費集めは病院役員の大き

な負担となっていますが、これからの東腎協活動のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

16. 他団体との連携

●東難連

東難連は東腎協を含む東京の難病一三団体（一万四〇〇〇人）で組織され、東京都の委託事業である「難病の医療相談」を中心に歴史ある活動を続けてきました。

しかし、最近の東京都の財政難のあおりを受け、委託事業費は毎年削減され、事務局の運営も困難

な状況になってきました。そこで、東難連では今後のあり方について委員会を持ち、討議を重ねてきましたが、来年度より各団体一律一百万円の会費を、会員数に応じた分担金制度に改めることとして、各加盟団体に提案しました。

この案によると、東腎協の負担額は一人二〇円、会員数七、〇〇〇人で一四万円負担となります。東腎協では第二四八回常任幹事会でこのことを協議し、東難連加盟の最大の団体として積極的に協力することを決めました。

●東京・無年金障害者をなくす会
今年度も東腎協は無年金障害者の問題に「東京・無年金障害者をなくす会」へ参加して、積極的に活動してきました。

今年三月の年金法の改正を控えて組織され「障害年金改正を求め大行動実行委員会」は、無年金障害者問題の解決を求めて、繰り返し国会請願活動を行ってきました。が、実現には至りませんでした。
また、国民年金未加入時の障害者で無年金とされている「無年金障害者」が障害基礎年金支給を求め、社会保険審査会に再審査請求をしている問題で昨年九月一九日と一二月二八日の二回にわたり、厚生省で公開審理が行われました。最終弁論では、現行法によって十分に救済可能なのに、法を盾にとつて否定する審査側の姿勢に対し、その反省を強く求めたことが特徴で、四時間に及ぶ最終陳述を終りました。

●障害者の生活と権利を守る 都民連絡会（略称・障都連）

昨年度の東京都における福祉施策の見直しで、東腎協は独自の活動に加えて、障都連とも協同して

福祉を守る活動を進めてきました。今年度も引き続き障都連の主催している「東京都の福祉見直しに反対し、障害者を守り発展させる会」に入り、都庁要請、都議会要請、学習会などに参加しました。

●清瀬園施設オンブズマンへ参加
東京都では障害者の権利擁護の一環として評価基準にもとづいて心身障害者（児）入所施設のサービスの自己評価と心身障害者

この一年を振り返り会員の皆さんはどんな印象を持ちましたでしょうか。私たちの基本的な願いは「誰でもどこでも安心して透析が受けられる」体制を整えていくことです。

しかし、透析医療費は四月の医療費改定で、ダイアライザーなどを中心に引き下げられました。度を重なる透析医療費の引き下げは「透析医療の質」の低下を招きます。皆さんの施設でも、既に看護婦や医療スタッフの削減が行われているところがあると思います。

（児）入所施設サービスポイント調整委員会（通称・施設オンブズマン）による第三者評価を平成一〇年度から実施しています。

平成一一年度には内部障害者の更正施設となつている「清瀬園」に施設オンブズマンが設置され、東腎協からも委員として代表を送っています。オンブズマンは利用者や施設の状況を調査し、一二月三〇日に平成一二年度の第三者評価報告書を施設長へ提出しました。

一方で、透析患者は相変わらず毎年一万人のペースで増えつづけ、その分の医療費だけでも五〇〇億円に上ります。国は、透析医療費を抑制して透析医療費の総額を増やさないようにしています。こうした事実には私たちは強い危機感を共有していかなければなりません。

また、今年度は、透析医療現場において肝炎の院内感染事故あるいは透析操作ミスでの死亡事故などが頻発し、私たちは、日々の透析を不安な気持ちで受けてきました。医療保険制度や東京都の医療

費助成制度も財政難を理由に受益者負担の方向を強く打ち出しています。

このように私たちをめぐる透析医療環境は、この一年で悪化したように感じます。こうした中で患者会活動もまた厳しい時期を迎えています。役員の高齢化や透析の長期化による重症化は患者会活動を停滞させたり、時には解散に追い込まれるなど、病院腎友会や東腎協の致命傷となります。

これを防ぐには役員の協力体制を強めることが大切です。今日の厳しい透析環境に置かれているという状況を考え、ともに力を合わせて私たちの活動を強めていく以外に方法はありません。

東腎協の役員も必死に活動します。「明日のために」ともにがんばりましょう。

三、おわりに

2000年度特別会計決算報告書

自2000年3月1日～至2001年2月28日

単位:円

| | 項目 | 金額 | 内訳 | 備考 |
|-------------|----------------------|------------|-----------|-------------------|
| 収入の部 | 前期繰越 | 15,282,943 | | |
| | 寄付金 | 2,000,000 | | 2口 |
| | 緊急手帳頒布代金 | 29,000 | | |
| | 「ガイドブック」販売代金 | 23,000 | | |
| | 全腎協大会準備金(全腎協より) | 300,000 | | |
| | がんばれ難病患者マラソンカレンダー販売代 | 55,850 | | |
| | 都民の集い | 670,000 | | |
| | 協賛金 | | 500,000 | ハクスター(株) |
| | 寄付金 | | 50,000 | (財)腎研究会 |
| | 寄付金(講師謝礼) | | 120,000 | 4人分 |
| | 国会請願募金 | 5,054,016 | | |
| | 1999年度分 | | 1,226,250 | |
| 2000年度分 | | 3,827,766 | | |
| | 合 計 | 23,414,809 | | |
| 支出の部 | 1. 「ガイドブック」購入費 | 18,000 | | 全腎協60部 |
| | 2. がんばれマラソンカレンダー購入費 | 30,000 | | 東難連へ |
| | 3. マル障改悪チラシ印刷代 | 72,450 | | 7500枚 |
| | 4. 国会請願 | 1,370,795 | | |
| | 募金振込み手数料 | | 31,700 | 2年分 |
| | 1999年度上納金 | | 1,278,300 | |
| | 署名用紙発送代 | | 60,795 | |
| | 5. 臓器移植キャンペーン | 630,942 | | |
| | 道路使用許可申請代 | | 6,735 | |
| | 意思表示カード入りティッシュ | | 176,700 | 単価9.30×19000ヶ |
| | カードセット料 | | 56,550 | 単価3×18850ヶ |
| | 上野会場設営費 | | 78,287 | テント、看板、机他 |
| | 当日運搬料 | | 20,000 | 単価5000×4 |
| | 宅急便(立川) | | 14,060 | |
| | メガフォン購入費 | | 47,250 | 3ヶ |
| | 参加費補助及び役員食事代 | | 228,971 | |
| | 雑費 | | 2,389 | 配布用ビニール袋 |
| | 6. 腎臓病を考える都民の集い | 827,067 | | |
| | 会場費、 | | 117,990 | 看板代、マイク、盛花 |
| | ポスター、チラシ印刷代 | | 241,500 | ポスター700部、チラシ5000部 |
| | ポスター発送代 | | 55,500 | 患者会、保健所、病院 |
| | プログラム用紙代 | | 5,040 | |
| | 講師謝礼 | | 280,000 | 10人 |
| | 役員交通費、役員・講師弁当代 | | 57,560 | |
| | ボランティア交通費 | | 3,940 | |
| | テープライト | | 40,380 | |
| | 雑費 | | 25,157 | 写真代、のし袋 |
| 7. 会員拡大ポスター | 147,000 | | 500部 | |
| | 合 計 | 3,096,254 | | |
| | 次期繰越 | 20,318,555 | | |

単位：円

| 度決算 | | |
|------------|---------|---------------------------|
| 内 訳 | 達成率/執行率 | 備 考 |
| | 99.0% | 期末7,118人 |
| | 60.3% | 扶桑薬品他 |
| | 113.3% | 広告代、印刷代、利子 |
| | 98.8% | |
| | | |
| | 98.9% | |
| | 98.5% | |
| 1,547,725 | | 総会会場費、議案書、弁当代、講師謝礼他 |
| 650,301 | | 幹事会・常任幹事会交通費、会場費 |
| 422,061 | | 大会、関B会議、災害対策他 |
| 138,800 | | 三役会議・各委員会日当・交通費 |
| | 51.3% | 各ブロック交流会費、会員交流会、学習交流会 |
| | | 青年部交流会、全腎協・関B青年交流会 |
| | 77.2% | |
| 2,273,985 | | 機関誌印刷代 |
| 277,724 | | 編集委員会、取材費、編集委員日当交通費 |
| 537,095 | | 会報『東腎協』、『ぜんじんきょう』発送費 |
| | 65.5% | 印刷用紙・材料費、コピー代、封筒、名刺、年賀状他 |
| | 120.8% | 交通費、日当、食事代 |
| | 95.2% | |
| 3,460,212 | | 事務所賃貸料 月額288,351円 |
| 232,050 | | 電気・ガス・水道料金 |
| 1,232,484 | | 切手代、はがき、電話代、メール便など |
| 554,541 | | パソコン、キャビネット、ロッカー、印刷機リース代他 |
| 164,893 | | 事務用消耗品 |
| 98,597 | | 都政新報、新日本法規、東難連、無年金冊子他 |
| | 96.9% | |
| 7,020,000 | | 事務局長、事務局次長、事務局員給料・特別手当 |
| 468,000 | | 事務局長、事務局次長、事務局員 |
| 881,870 | | アルバイト日当、交通費 |
| 245,200 | | 事務局3人分 |
| | 99.8% | |
| 12,755,700 | | 分担金 上期7,055人 下期7,118人 |
| 10,000 | | 分担金 |
| 16,256 | | 分担金 |
| | 75.3% | |
| | 94.8% | |
| | | |
| | 89.7% | |

2000年度決算報告書

(2000. 3. 1~2001. 2. 28)

| 科 目 | 1999年度予算 | | 2000年度予算 | | 2000年 |
|----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 予算額 | 内 訳 | 予算額 | 内 訳 | 決算額 |
| 収入の部 | | | | | |
| 会費 | 28,140,000 | | 38,340,000 | | 37,953,150 |
| 寄付金 | 500,000 | | 500,000 | | 301,320 |
| 雑収入 | 840,000 | | 840,000 | | 951,304 |
| 小計 | 29,480,000 | | 39,680,000 | | 39,205,774 |
| 前期繰越 | 2,093,103 | | 1,758,263 | | 1,758,263 |
| 特別会計から繰入 | 3,450,647 | | 0 | | 0 |
| 合計 | 35,023,750 | | 41,438,263 | | 40,964,037 |
| 支出の部 | | | | | |
| 会議費小計 | 2,490,000 | | 2,800,000 | | 2,788 |
| 総会費 | | 1,000,000 | | 1,400,000 | |
| 役員会費 | | 550,000 | | 550,000 | |
| 全腎協関係費 | | 690,000 | | 600,000 | |
| その他会議費 | | 250,000 | | 250,000 | |
| 交流会費 | 990,000 | | 1,050,000 | | 538,412 |
| 青年部活動費 | | | 300,000 | | 289,639 |
| 会報費小計 | 2,800,000 | | 4,000,000 | | 3,088,804 |
| 印刷費 | | | | 3,150,000 | |
| 編集費 | | | | 150,000 | |
| 発送費 | | | | 700,000 | |
| その他印刷費 | 800,000 | | 1,000,000 | | 654,565 |
| 役員行動費 | 1,000,000 | | 2,100,000 | | 2,536,437 |
| 事務局費小計 | 6,350,000 | | 6,030,212 | | 5,742,777 |
| 事務局管理費 | | 3,240,000 | | 3,460,212 | |
| 光熱費 | | 500,000 | | 300,000 | |
| 通信費 | | 1,850,000 | | 1,400,000 | |
| 備品費 | | 520,000 | | 520,000 | |
| 事務用品費 | | 140,000 | | 200,000 | |
| 新聞図書費 | | 100,000 | | 150,000 | |
| 人件費小計 | 8,342,000 | | 8,894,000 | | 8,615,070 |
| 給料 | | 6,480,000 | | 7,020,000 | |
| 退職積立金 | | 432,000 | | 468,000 | |
| アルバイト料 | | 1,040,000 | | 1,026,000 | |
| 通勤交通費 | | 390,000 | | 380,000 | |
| 諸会費小計 | 12,081,750 | | 12,805,000 | | 12,781,956 |
| 全腎協 | | 12,060,000 | | 12,780,000 | |
| 東難連 | | 10,000 | | 10,000 | |
| 障定協 | | 11,750 | | 15,000 | |
| 雑費 | 170,000 | | 209,051 | | 157,454 |
| 合計 | 35,023,750 | | 39,188,263 | | 37,164,001 |
| 予備費 | 0 | | 2,250,000 | | 0 |
| 総合計 | 35,023,750 | | 41,438,263 | | 37,164,001 |
| 次期へ繰越 | | | | | 3,800,036 |

貸借対照表

2001.2.28

| 借 方 | | 貸 方 | |
|--------------|------------|---------|------------|
| 科 目 名 | 金 額 | 科 目 名 | 金 額 |
| 現金 | 167,504 | 一般会計剰余金 | 3,800,036 |
| 郵便振替 | 5,025,827 | 特別会計剰余金 | 20,318,555 |
| 普通預金(東京三菱銀行) | 11,471,160 | 前受金 | 45,900 |
| 定期預金(東京三菱銀行) | 7,500,000 | 退職給与積立金 | 4,506,000 |
| 定額貯金(南大塚郵便局) | 4,506,000 | | |
| 合 計 | 28,670,491 | 合 計 | 28,670,491 |

現預金残高明細書

2001.2.28

| 項 目 | 金 額 | 備 考 |
|------|------------|---------------------|
| 現金 | 167,504 | 手持ち有高 |
| 普通預金 | 11,471,160 | 東京三菱大塚支店 No.0925188 |
| 定期預金 | 7,500,000 | 同 上 No.0925188 |
| 定額貯金 | 4,506,000 | 南大塚郵便局 |
| 郵便振替 | 5,025,827 | 00150-0-128390 |
| 合 計 | 28,670,491 | |

2000年度会計監査報告書

私たち監査は、東京都腎臓病患者連絡協議会の2000年度の決算報告書、すなわち現金、銀行預金、元帳、現金出納帳等について監査し、その結果、すべての経理処理手続きは公正、妥当と認められました。

2001年3月14日

会計監査

加藤

要



同

松下よう子



備 品 等 一 覧

2001.2.28 現在

| 購入日 | 品 名 | 金 額 | 備 考 |
|------------|---|---------|----------------------|
| 1977.10.26 | レタースケール (6 kg) | 5,600 | |
| 1978.5.16 | 事務机 SD-S65-3P 1台 | 15,000 | |
| 1978.5.16 | 事務椅子 CR25 1脚 | 8,000 | |
| 1981.7.17 | 折畳み椅子 FC318N 4脚 | 21,500 | |
| 1981.2.25 | 作業用テーブル FT-640 2台 | 58,800 | |
| 1981.2.25 | 耐火金庫 D-26 | 50,600 | |
| 1986.2.27 | 冷蔵庫 SJ8085G、書庫 S-2335 | 30,000 | 田沼事務所より下取り |
| 1986.2.28 | 掃除機 TC-A90 | 24,400 | |
| 1986.4.11 | ワープロ RICOH RIPOPT4600 | | 5年リース解消 |
| 1986.5.12 | 事務椅子 KC170N 1脚 | 7,000 | |
| 1986.11.28 | ホワイトボード | 20,000 | |
| 1989.1.9 | ファクス KONICAFAX110 | | 寄贈品 |
| 1989.2.27 | ワープロ RICOH RIPOPT5300 | | 5年リース解消 |
| 1991.2.18 | 作業用テーブル FT-640 2台 | 80,000 | |
| 1993.5.25 | コピー機 リコーFT4525 | 412,000 | |
| 1993.8.31 | コクヨ書棚 2本 | 9,270 | |
| 1994.6.7 | 印刷機 VT2620 | 976,440 | 5年リース終了・廃棄 |
| 1994.9.30 | ワープロ リコーNT-380 | 118,000 | |
| 1994.12.26 | 紙折り機 LF-300 | 92,700 | |
| 1995.2.28 | シュレッダー リコー2211PT | 103,000 | |
| 1995.5.8 | ノート PC DynaBookSS450 | 329,600 | |
| 1995.5.31 | 手提金庫 | 10,400 | |
| 1995.6.2 | ワープロ リコーNV-710 | 154,800 | |
| 1995.11.29 | プリンターCANON LBP730 | 175,100 | |
| 1996.2.28 | 電動ホチキス | 27,000 | |
| 1996.4.24 | パソコン IBM Aptiva | 366,680 | |
| 1996.4.30 | 事務椅子 4脚 | 85,000 | |
| 1996.7.8 | 卓上型梱包機 | 290,000 | |
| 1997.2.28 | 事務椅子 1脚 | 23,800 | |
| 1997.4.3 | パソコン IBM PC340 NEC スキャナー NEC プリンター PICTY200 | | 日本障害者リハビリテーション協会より貸与 |
| 1997.4.15 | カメラ MINOLTA カピオス | 19,800 | |

二〇〇二年度活動方針(案)

二一世紀を迎えて、日本の先行きはなお不透明です。森首相の去就を巡る政治不信や外務省の機密費の使途問題など政治に対する国民の期待は地に落ちた感があります。そんな世情を反映して、日本経済は相変わらず景気の停滞が続き、三月には株価が暴落、パブル崩壊後の最安値を記録するなど、一向に光明を見出せません。

昨年度、私たちは東京都の財政再建の名のもとに、マル障制度の後退や老人保健の自己負担強化などの、大きな試練に立ち向かいその被害を最小に防ぐ活動を展開してきました。今年度は、私たちの最大関心事でもある医療保険の抜本改革案が発表されることになっています。また、年金財政も逼迫しているといわれ、社会保障制度は大きな転機を迎えています。

透析医療もその例外とは言えず、定額制の強化なども予想され、個々の症状に応じた処方透析

は、診療報酬の上からもますます遠のいていくこととなります。

会員の皆さん、今年度はよりいっそう、医療制度や医療体制に関心を持って私たちの運動の根本である、命と暮らしを守り、誰もがどこでも安心して透析が受けられる環境づくりにがんばりましょう。

今年度は下記のような方針のもとに一年間の活動をすすめます。

一、腎臓病の研究・予防・治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策を確立するため、運動をすすめます。

①慢性腎炎患者の医療費を公費負担すること。

②内部障害者は、4級まで医療費を公費負担すること。

③人工透析をしている障害者を東京都職員に採用すること。

④腎機能障害者の雇用を促進すること。

⑤乳幼児、児童、生徒、学生、

勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し管理体制を確立すること。

⑥糖尿病性腎症の透析患者を増やさなため、糖尿病性腎症の知識普及や予防・管理体制を推進すること。

二、臓器移植意思表示カードの普及など、腎移植推進のための運動をすすめます。

三、医療体制の整備に関する要望

①「衛生局改革アクションプラン」における都立病院改革については、都の直営を守り、充実・発展させること。

②すべての都立病院に腎外来を設置し、外来透析及び夜間透析を実施・拡充すること。

③都立府中病院については、緊急に透析室を拡充し、スタッフの確保を図ること。

④都立大久保病院については、夜間透析を拡充するとともに、成人の腎移植を早急に実施すること。

⑤都立豊島病院については、糖尿病からの透析治療を含む腎不全センターを設置すること。

⑥看護婦や臨床工学技士などの医療スタッフを確保すること。

⑦老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置すること。

⑧多摩南部地域病院における透析治療は、導入透析や合併症に対応できる地域透析センターとして整備すること。

⑨島しょにおける透析は、看護婦・臨床工学技士などの医療スタッフの確保を図るとともに、逐次拡充すること。

四、医療費、生活保障に関する要望

- ① 心身障害者医療費助成制度や東京都医療費助成制度を改正前に戻すこと。
- ② 心身障害者福祉手当を増額し、支給要件を改正前に戻すこと。
- ③ 児童扶養手当の認定基準に見られるような、内部障害と他の障害との差別を是正すること。

- ④ 障害者の旅客運賃割引制度の距離制限を廃止し、特急料金も割引対象とするよう国等へ働きかけること。
- ⑤ 障害者、難病患者に対し、民営バスの無料乗車券を発行すること。
- ⑥ 在宅の要介護透析患者が利用できる福祉対策を充実すること。

- ⑦ 第2障害者福祉会館の建設または既存の東京都施設内の会議室を障害者に開放すること。
- ⑧ 「福祉のまちづくり」実施のため、その予算確保に最大限努力すること。
- ⑨ 要介護透析患者や合併症を持つ

った透析患者の対策についての運動をすすめること。

- ⑩ 糖尿病からの透析患者対策についての運動をすすめること。
- ⑪ 介護保険制度で透析患者の移送サービスの実現をめざすこと。

- ⑫ 透析施設間ネットワーク化や通院の確保など、地震などの災害時における緊急透析治療体制を早急に確立すること。

- ⑬ 高齢者福祉・医療の複合施設は透析患者が利用できる施設にすること。

五、教育・宣伝活動

- ① 腎臓病の知識普及のため、「腎臓病を考える都民の集い」を開催し、報告集の発行に努めます。
- ② 機関誌「東腎協」の定期発行に努めます。さらに、速やかな情報伝達のために「とうじんきょうニュース」を必要に応じて発行します。

- 六、全腎協・東腎協の結成30周年に向けた活動
- ① 本年5月20日に開催される全

腎協結成30周年記念・社団法人化5周年記念大会の開催に協力します。

- ② 来年度の東腎協結成30周年記念事業について検討します。

七、組織強化のために

- ① 会員拡大を図り、次の総会までに7,500人を目標とします。
- ② 青年部の活動を強化するため学習交流会などを開催します。
- ③ 幹事・常任幹事を対象とした学習会を開きます。
- ④ 各腎友会の組織強化を図ります。
- ⑤ ブロック活動を活発にし、病院腎友会及び会員相互の交流を深めます。
- ⑥ 地方分権化の推進に伴い、区市町村単位の患者会の結成に努めます。

- 八、他団体との連携
- ① 医療、福祉の全国的な問題に関しては、全腎協とともに運動をすすめます。
- ② 東難連や要望が一致する他の団体と連携・協力して医療と

福祉のための運動をすすめます。

- 九、今後ますます厳しさを増す医療情勢や、会員増、活動の多様化などに対応するため、事務局体制の強化を図ります。

一〇、以上の要望事項を実現するため、都庁要請、都議会をはじめ関係機関への要請活動等を行います。

単位：円

| 2001年度予算案 | | | |
|------------|------------|---------|------------------------------------|
| 予算額 | 内訳 | 00年対比 | 備考 |
| 38,340,000 | | 100.0% | 7,100人×5,400円 |
| 200,000 | | 40.0% | 扶桑薬品他 |
| 800,000 | | 95.2% | 広告代、印刷代、利子 |
| 39,340,000 | | 99.1% | |
| 3,800,036 | | | |
| 0 | | | |
| 43,140,036 | | 104.1% | |
| 3,000,000 | | 126.8% | |
| | 1,700,000 | 121.4% | 総会会場費、議案書(82万)、弁当代、講師謝礼他 |
| | 700,000 | 127.3% | 幹事会・常任幹事会交通費、会場費 |
| | 900,000 | 150.0% | 大会50万円、関B会議、関B災害対策他 |
| | 250,000 | 100.0% | 三役会議・各委員会日当・交通費 |
| 1,050,000 | | 100.0% | 各ブロック71万円、会員15万円、学習12万円、地域腎友会 |
| 300,000 | | 100.0% | 全国・関B・東京青年交流 |
| 3,600,000 | | 90.0% | |
| | 2,500,000 | | 機関誌印刷代、編集委員会、取材費 |
| | 400,000 | | |
| | 700,000 | | |
| 1,000,000 | | 100.0% | 印刷用紙・材料費、コピー代、封筒、名刺他 |
| 3,000,000 | | 142.9% | 交通費、日当、食事代 |
| 6,030,212 | | 100.0% | |
| | 3,460,212 | 100.0% | 事務所賃貸料288,351円×12ヶ月 |
| | 300,000 | 100.0% | 電気・ガス・水道料金 |
| | 1,400,000 | 100.0% | 機関誌発送費、切手代、電話代、 |
| | 520,000 | 100.0% | 印刷機リース代他 |
| | 200,000 | 100.0% | 事務用消耗品 |
| | 150,000 | 100.0% | 都政新報、新日本法規他 |
| 9,571,710 | | 102.0% | |
| | 6,285,000 | 89.5% | (191,000+130,000+98,000)×15ヶ月 3%UP |
| | 419,000 | 89.5% | 事務局長、事務局次長、事務局員 |
| | 2,139,350 | 208.5% | 日当3%UP 5150円 |
| | 228,360 | 60.1% | |
| 12,968,256 | | 101.3% | |
| | 12,780,000 | 100.0% | 分担金7,100人×1,800円 |
| | 142,000 | 1420.0% | 分担金7,100人×20円 |
| | 16,256 | 108.4% | |
| | 30,000 | | 分担金 |
| 169,858 | | 81.3% | |
| 40,740,036 | | | |
| 400,000 | | | |
| 2,000,000 | | | |
| 43,140,036 | | | |
| 0 | | | |

2001年度予算案

(2001. 3. 1～2002. 2. 28)

| 科 目 | | 2000年度予算 | | 2000年度決算 | |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | 予算額 | 内 訳 | 予算額 | 内 訳 |
| 収入の部 | 会費 | 38,340,000 | | 37,953,150 | |
| | 寄付金 | 500,000 | | 301,320 | |
| | 雑収入 | 840,000 | | 951,304 | |
| | 小計 | 39,680,000 | | 39,205,774 | |
| | 前期繰越 | 1,758,263 | | 1,758,263 | |
| | 特別会計から繰入 | 0 | | 0 | |
| | 合計 | 41,438,263 | | 40,964,037 | |
| 支出の部 | 会議費小計 | 2,800,000 | | 2,758,887 | |
| | 総会費 | | 1,400,000 | | 1,547,725 |
| | 役員会費 | | 550,000 | | 650,301 |
| | 全腎協関係費 | | 600,000 | | 422,061 |
| | その他会議費 | | 250,000 | | 138,800 |
| | 交流会費小計 | 1,050,000 | | 538,412 | |
| | 青年部活動費 | 300,000 | | 289,639 | |
| | 会報費小計 | 4,000,000 | | 3,088,804 | |
| | 印刷費 | | 3,150,000 | | 2,273,985 |
| | 編集費 | | 150,000 | | 277,724 |
| | 発送費 | | 700,000 | | 537,095 |
| | その他印刷費 | 1,000,000 | | 654,565 | |
| | 役員行動費小計 | 2,100,000 | | 2,536,437 | |
| | 事務局費小計 | 6,030,212 | | 5,742,777 | |
| | 事務所管理費 | | 3,460,212 | | 3,460,212 |
| | 光熱費・水道料金 | | 300,000 | | 232,050 |
| | 通信費 | | 1,400,000 | | 1,232,484 |
| | 備品費 | | 520,000 | | 554,541 |
| | 事務用品費 | | 200,000 | | 164,893 |
| | 新聞図書費 | | 150,000 | | 98,597 |
| | 人件費小計 | 8,894,000 | | 8,615,070 | |
| | 給料 | | 7,020,000 | | 7,000,000 |
| | 退職積立金 | | 468,000 | | 468,000 |
| | アルバイト料 | | 1,026,000 | | 881,870 |
| | 通勤交通費 | | 380,000 | | 245,200 |
| | 諸会費小計 | 12,805,000 | | 12,781,956 | |
| | 全腎協 | | 12,780,000 | | 12,755,700 |
| | 東灘連 | | 10,000 | | 10,000 |
| | 障定協 | | 15,000 | | 16,256 |
| | その他の諸会費 | | | | |
| | 雑費小計 | 209,051 | | 157,454 | |
| | 合計 | 39,188,263 | | 37,164,001 | |
| | 予備費 | 2,250,000 | | 0 | |
| | 30周年事業費積み金 | 0 | | 0 | |
| | 総合計 | 41,438,263 | | 37,164,001 | |
| | 次期へ繰越 | | | 3,800,036 | |

2001年度特別会計予算案

自2001年3月1日～至2002年2月28日

単位:円

| | 項 目 | 金 額 | 内 訳 | 備 考 |
|--------------|------------------|------------|---------|-------------|
| 収入の部 | 前期繰越 | 20,318,555 | | |
| | 全腎協・JPC国会請願募金 | 3,800,000 | | 前回並みとして |
| | 合計 | 24,118,555 | | |
| 支出の部 | 1. 腎臓病を考える都民の集い費 | 1,550,000 | | |
| | 会場費 | | 300,000 | |
| | ポスター・チラシ印刷代 | | 250,000 | |
| | ポスター・チラシ発送代 | | 60,000 | |
| | 「報告集」印刷費 | | 550,000 | |
| | 「報告集」発送費 | | 70,000 | |
| | 「報告集」編集費 | | 50,000 | |
| | 当日役員交通費、昼食代 | | 60,000 | |
| | 講師・相談医謝礼 | | 180,000 | 医師6人 |
| | 雑費 | | 30,000 | |
| | 2. 臓器移植推進キャンペーン費 | 835,000 | | |
| | 交通費補助など | | 300,000 | |
| | ティッシュ | | 370,000 | 30000個セット料込 |
| | 会場設営費 | | 100,000 | |
| 運搬料 | | 35,000 | | |
| 雑費 | | 30,000 | | |
| 3. 緊急時透析患者手帳 | 100,000 | | | |
| 4. 会員カード | 100,000 | | | |
| 5. 国会請願募金上納金 | 1,200,000 | | 前回並み | |
| 6. 入会のしおり印刷費 | 150,000 | | 3000部 | |
| 合計 | | 3,935,000 | | |
| | 次期繰越 | 20,183,555 | | |

脚注 2001年度全腎協およびJPCの国会請願署名・募金運動が行われる場合はそれに必要な経費は特別会計から支出し、納入された募金については、特別会計の収入とさせていただきますことをご了承ください。

総会宣言(案)

20世紀は人類がかつて経験したことのない激動の100年であったと思う。第二次世界大戦、そして終戦。戦後の日本はひたすら復興に努め、世界屈指の経済大国となった。しかし昨今、大企業の倒産が相次ぎ、リストラによる完全失業者も4.9%と上昇し、株価の暴落と重なり、日本経済の行方は21世紀を迎えた現在も依然として先行きは不透明である。

少子、高齢化が進む中、昨年4月から介護保険制度がスタートしたが、5年後の見直しに向けいろいろな問題が山積している。また、昨年、相次いで発生した少年による衝撃的な凶悪犯罪は大きな社会問題として報道された。

災害では、昨年3月、北海道有珠山の噴火に続き、三宅島の噴火では大きな被害が続出、多くの島民が現在もなお避難生活を余儀なくされている。災害は各国にも及びトルコ地震につづき、今回のインド地震でも多くの犠牲者が出て自然災害の恐ろしさを共感した。唯一、明るい話題としては、シドニーオリンピックにおいて女子マラソンで高橋尚子、女子柔道の田村亮子選手の金メダル獲得が感動的だった。

20世紀最後となった2000年は、都の財政難を理由として、永年続いた都の心身障害者医療費助成制度(マル障)や心身障害者福祉手当に見られるように制度の改悪や自己負担強化の方向が強く打ち出された。

東腎協は、この制度改悪問題に対し、他の障害者団体と共に署名運動をはじめ強力な反対運動を展開し、透析医療費の無料化を守るという、大きな成果を得た。しかしながら、年明け1月より老人保健法が改定され、これまでの定額負担から一割負担と国のレベルでも負担の強化が断行された。

このように、医療、福祉、年金と今年も私たちを取り巻く社会保障制度は厳しい環境となっている。こうした中で私たちは、医療保険の抜本改正を始め、年金問題、長期透析による合併症問題、最近多発している医療ミス、院内感染対策、要介護透析患者の通院問題、災害対策、臓器移植問題など山積している諸問題に対し、透析患者が一致団結し、命と暮らしを守る運動をますます強化していくことをここに宣言します。

2001年4月22日

東京都腎臓病患者連絡協議会 第29回総会

2001年度東腎協役員候補者名簿

3月26日現在

| No. | 役職名 | 氏名 | 会名 | 備考 |
|-----|--------|---------|---------------|---------|
| 1 | 会長 | 糸賀 久夫 | 松和患者会西新宿支部 | ○ |
| 2 | 副会長 | 森田 廣明 | 森山病院友の会 | ○ 会長代行 |
| 3 | 副会長 | 一ノ清 明 | 東高円寺フェニックス会 | ○ |
| 4 | 副会長 | 今井 功 | 鶴田クリニック友の会 | ○ 全腎協担当 |
| 5 | 副会長 | 北爪 勇 | 湯島腎友会 | ○ 東難連担当 |
| 6 | 副会長 | 高橋 勇二郎 | 田端駅前クリニック | |
| 7 | 副会長 | 原 三代吉 | 腎研友の会 | ○ |
| 8 | 副会長 | 藤原 実 | 嬉泉病院二一レ友の会 | ○ 全腎協担当 |
| 9 | 副会長 | 堀 和正 | 高中腎友会 | |
| 10 | 副会長 | 渡辺 忠志 | 虎の門・高津会 | ○ |
| 11 | 事務局長 | 森 義昭 | 虎の門・高津会 | ○ |
| 12 | 事務局次長 | 木村 妙子 | 上野しのばす会 | ○ |
| 13 | 事務局次長 | 田中 助成 | 聖路加二一レ会 | ○ |
| 14 | 会計 | 井上 寧枝 | 吉祥寺あさひ腎友会 | ○ |
| 15 | 常任幹事 | 会津 一 | 個人会員 | |
| 16 | 常任幹事 | 生井 克子 | 阿佐谷すすぎ腎友会 | ○ |
| 17 | 常任幹事 | 石川 秀雄 | 新小岩クリニック友の会 | ○ 新 |
| 18 | 常任幹事 | 一川 和夫 | あけほの友の会 | ○ 新 |
| 19 | 常任幹事 | 小川 嗣雄 | 立川北口駅前腎友会 | |
| 20 | 常任幹事 | 押山 大作 | 小池内科患者会小池会 | ○ |
| 21 | 常任幹事 | 小田原 庸吉 | 吉祥寺あさひ腎友会 | ○ |
| 22 | 常任幹事 | 小野 協子 | 東海病院ひまわり会 | ○ |
| 23 | 常任幹事 | 金子 智 | 松和患者会目白支部 | |
| 24 | 常任幹事 | 軽部 和之 | 立川相互腎クリニック希望会 | ○ |
| 25 | 常任幹事 | 木下 久吉 | 山田クリニック腎友会 | ○ 新 |
| 26 | 常任幹事 | 久保 正業 | 松和患者会西新宿支部 | ○ |
| 27 | 常任幹事 | 小泉 左内 | 杏林腎友会 | |
| 28 | 常任幹事 | 榊原 靖夫 | 高中腎友会 | |
| 29 | 常任幹事 | 工藤 歩 | 貴友会王子病院友の会 | |
| 30 | 常任幹事 | 佐々木 利喜栄 | 森山病院友の会 | ○ |
| 31 | 常任幹事 | 東野 榮夫 | あけほの友の会 | ○ |
| 32 | 常任幹事 | 富山 光子 | 嬉泉病院二一レ友の会 | ○ 新 |
| 33 | 常任幹事 | 納島 慶吉 | 新小岩クリニック友の会 | ○ |
| 34 | 常任幹事 | 野口 美津枝 | 羽村相互診療所たんぼほの会 | ○ 新 |
| 35 | 常任幹事 | 星野 祐介 | 個人会員 | |
| 36 | 常任幹事 | 柳 光夫 | サボテン会 | |
| 37 | 常任幹事 | 山田 秀行 | 今尾医院腎友会 | ○ |
| 38 | 常任幹事 | 吉田 芳子 | 南大沢バオレ腎友会 | ○ |
| 1 | オブザーバー | 戸倉 振一 | 森山病院友の会 | ○ 新 |
| 1 | 会計監査 | 加藤 要 | 聖路加二一レ会 | |
| 2 | 会計監査 | 梅原 伸之 | 虎の門・高津会 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|--------|----------------|----|
| 1 幹事 | 矢田 暉子 | 愛和腎友会 | ○ |
| 2 幹事 | 小椋 徳智子 | 青山会 | ○新 |
| 3 幹事 | 八重樫 康夫 | 赤羽中央病院腎センター腎友会 | ○ |
| 4 幹事 | 宮本 保 | 昭島腎クリニックひまわり会 | ○ |
| 5 幹事 | 丸山 昇 | 秋葉原腎クリニック腎友会 | ○新 |
| 6 幹事 | 尾沼 敬三 | あけほの友の会 | ○ |
| 7 幹事 | 酒井 恒子 | あけほのクリニック友の会 | |
| 8 幹事 | 飯野 怜之 | 阿佐谷すずき腎友会 | ○ |
| 9 幹事 | 西村 竹俊 | 小豆沢病院透析友の会 | ○ |
| 10 幹事 | 佐藤 行成 | 飯田橋クリニック腎友会 | ○ |
| 11 幹事 | 斉藤 隆 | 板橋駅前板友会 | |
| 12 幹事 | 中山 正作 | 稲城市立病院腎友会 | |
| 13 幹事 | 大久保 明雄 | 今尾医院腎友会 | ○ |
| 14 幹事 | 杉浦 健祐 | 入谷クリニック腎友会 | |
| 15 幹事 | 清水正平 | 岩本町腎クリニック友の会 | |
| 16 幹事 | 鈴木 澄子 | 上野しのばず会 | |
| 17 幹事 | 中嶋 仁司 | 大島腎友会 | ○ |
| 18 幹事 | 長谷川 悟 | 大田病院腎患者会 | |
| 19 幹事 | 太田 肇彦 | 大橋クリニック友の会 | |
| 20 幹事 | 山田 洋司 | 大山腎友会 | ○ |
| 21 幹事 | 川島 行雄 | 小笠原クリニック友の会 | ○ |
| 22 幹事 | 近藤 守 | 織本病院腎友会 | |
| 23 幹事 | 荒巻 好美 | 菊川橋クリニック腎友会 | |
| 24 幹事 | 橋本 剛治 | 嬉泉病院ニーレ友の会 | ○ |
| 25 幹事 | 吉田 悦男 | 北多摩病院腎友会 | ○ |
| 26 幹事 | 土田 直次郎 | 北病院腎友会 | |
| 27 幹事 | 篠 喜代子 | 吉祥寺あさひ腎友会 | ○ |
| 28 幹事 | 長坂 希望 | 境南クリニック患者会 | |
| 29 幹事 | 篠田 喜代 | 貴友会王子病院友の会 | |
| 30 幹事 | 伊藤 保雄 | 杏林腎友会 | |
| 31 幹事 | 塩谷 昌巳 | くにたち桜会 | ○新 |
| 32 幹事 | 立石 寿憲 | 桑の実会(明神町) | |
| 33 幹事 | 中脇 賢蔵 | 薫風園腎友会 | ○ |
| 34 幹事 | 奥田 悦子 | 小池内科患者会小池会 | ○ |
| 35 幹事 | 大伴 順子 | 江東橋腎友会 | |
| 36 幹事 | 高倉 正子 | 国分寺こやま腎友会 | ○新 |
| 37 幹事 | 星野 浩二 | 国分寺南口クリニック親光会 | |
| 38 幹事 | 中村 治兵衛 | サボテン会 | ○ |
| 39 幹事 | 里山 保 | 三軒茶屋病院腎友会 | |
| 40 幹事 | 中村 敏邦 | 十条腎和会 | ○ |
| 41 幹事 | 田中 克人 | 松和患者会西新宿支部 | ○ |
| 42 幹事 | 石川 一男 | 松和患者会目白支部 | |
| 43 幹事 | 安部 克明 | 新小岩クリニック友の会 | ○ |
| 44 幹事 | 清水 国衛 | 新宿水明クリニック腎友会 | ○新 |
| 45 幹事 | 加藤 明 | 新松山病院友の会 | |
| 46 幹事 | 関口 礼子 | 腎研友の会 | ○ |
| 47 幹事 | 高崎 豊彦 | 虎の門・高津会 | ○ |
| 48 幹事 | 猪瀬 恵美子 | すずらん腎友会 | ○ |

| | | | | |
|----|----|--------|----------------|----|
| 49 | 幹事 | 林田 洋子 | 聖蹟さくら会 | |
| 50 | 幹事 | 田中 新一 | 聖路加ニーシ会 | ○ |
| 51 | 幹事 | 図師 リツ子 | 高尾もみじ会 | ○ |
| 52 | 幹事 | 大貫 利男 | 高中腎友会 | ○ |
| 53 | 幹事 | 山路 忠彦 | 高松病院患者会 | |
| 54 | 幹事 | 浅見 正治 | 竹口病院腎友会 | ○ |
| 55 | 幹事 | 中村 文子 | 立川北口駅前腎友会 | |
| 56 | 幹事 | 下野 陽子 | 立川相互腎クリニック希望会 | ○ |
| 57 | 幹事 | 河内 亜登務 | 立花クリニック友の会 | |
| 58 | 幹事 | 坂野 一寿 | 調布病院腎友会 | |
| 59 | 幹事 | 渡邊 靖 | 調布東山クリニック腎友会 | ○ |
| 60 | 幹事 | 岩橋 勝子 | 鶴田クリニック友の会 | ○ |
| 61 | 幹事 | 猪狩 奈美枝 | 帝京大学病院腎友会 | ○ |
| 62 | 幹事 | 山口 猛 | 天神橋クリニック腎友会 | |
| 63 | 幹事 | 渡辺 精二 | 東海病院ひまわり会 | ○ |
| 64 | 幹事 | 会沢 常謙 | 東京共済病院腎友会 | |
| 65 | 幹事 | 菅原 律子 | 東京厚生年金病院腎友会 | |
| 66 | 幹事 | 桐島 伸曠 | 東和病院腎友会 | ○ |
| 67 | 幹事 | 篠原 栄一 | 中野クリニック腎友会 | ○新 |
| 68 | 幹事 | | 中目黒クリニック腎友会 | |
| 69 | 幹事 | 武藤 富美子 | 長久保クリニック腎友会 | |
| 70 | 幹事 | 竹川 和明 | 西新井病院腎友の会 | ○ |
| 71 | 幹事 | 阿部 寿彦 | 西口21友の会 | |
| 72 | 幹事 | 成田 美恵子 | 日伸駅前クリニック腎友会 | |
| 73 | 幹事 | 大久保 信二 | 博慈会腎クリニックあしたば会 | |
| 74 | 幹事 | 中島 良明 | 長谷川病院腎友会 | ○ |
| 75 | 幹事 | 横谷 克夫 | 羽村相互診療所たんぼほの会 | ○新 |
| 76 | 幹事 | 吉田 喜代子 | 東高円寺フェニックス会 | ○ |
| 77 | 幹事 | 戸嶋 勝雄 | 聖橋クリニック腎友会 | ○新 |
| 78 | 幹事 | 花澤 弘 | 深川橋クリニック腎友会 | |
| 79 | 幹事 | 青木 義孝 | 福生病院こてまり会 | ○ |
| 80 | 幹事 | 村上 ひろ | 府中けやき会 | ○ |
| 81 | 幹事 | 武田 花子 | 豊生会 | |
| 82 | 幹事 | 岩本 潤史朗 | 望星田無友の会 | |
| 83 | 幹事 | 本橋 辰美 | 保谷腎友会 | ○新 |
| 84 | 幹事 | 宮本 里子 | 牧田友の会 | |
| 85 | 幹事 | 中根 亨 | 町谷原クリニック腎友会 | |
| 86 | 幹事 | すみれ会 | 松村クリニックすみれ会 | |
| 87 | 幹事 | 藤田 亮一 | みさと健腎会 | |
| 88 | 幹事 | 鍛冶 可子 | 瑞江腎クリニック腎友会 | |
| 89 | 幹事 | 瀬賀 康平 | 三鷹北口クリニック腎友会 | ○ |
| 90 | 幹事 | 野崎 順子 | 南大沢パオレ腎友会 | ○新 |
| 91 | 幹事 | 矢口 裕一 | 南千住病院河童会 | |
| 92 | 幹事 | 小堀 明人 | 南多摩病院のばら会 | |
| 93 | 幹事 | 森 善哉 | 武蔵境駅前クリニック腎友会 | ○新 |
| 94 | 幹事 | 茂垣 長寿 | 村上医院ひまわり会 | |
| 95 | 幹事 | 宗像 聡之 | 森山病院友の会 | ○ |
| 96 | 幹事 | 青木 智子 | 大和病院透析友の会 | |

| | | | | |
|-----|-----------------|---------|--------------|----|
| 97 | 幹事 | 腎友会 | 谷中三和クリニック腎友会 | |
| 98 | 幹事 | 中川 喜太治 | 柳原健腎会 | |
| 99 | 幹事 | 長谷川 義昭 | 山田クリニック | ○新 |
| 100 | 幹事 | 腎友会 | 湯島腎友会 | |
| 101 | 幹事 | 芳賀 房夫 | 代々木病院腎友会 | ○ |
| | サテライト・グループ・リーダー | 菅原 八重 | 代々木病院腎友会 | |
| | サテライト・グループ・リーダー | 道岡 勝人 | 人工腎臓虎の門・高津会 | |
| | グループ・リーダー | 山下 和子 | 青梅市立病院 | ○新 |
| | グループ・リーダー | 岡田 房子 | 相武台ニーレンクリニック | |
| | グループ・リーダー | 久保田 由美子 | 東葛クリニック小岩 | |
| | グループ・リーダー | 石井・武田 | 西クリニック（武田G） | |
| | グループ・リーダー | 島田 孝司 | 東村山診療所 | |
| | グループ・リーダー | 新山 筒子 | 西クリニック（新山G） | |
| | グループ・リーダー | 高橋 勇二郎 | 東京女子医大田端グループ | |
| | グループ・リーダー | 大塚 栄子 | 八木内科 | |
| | グループ・リーダー | 鈴木 智美 | 町屋駅前クリニック | |

二〇〇〇年度主な活動記録

2000年3月

- 1 国会請願署名、看護協会署名整理(3人)
都議会請願最終集計表作成
第239回常任幹事会開催
(20人)
5 常任幹事会報告作成
7 「ぜんじんきょう」No.178発送
11、12 全腎協総会(2人)
12 青年部打合せ(7人)
16 「東腎協」No.133企画(10人)
1999年度会計監査(3人)
清瀬園オンブズマンで面接相談

- 入会呼びかけ：河辺駅前クリニック・日野クリニック訪問
26 森山病院、東和病院各総会出席(1人)

- 赤羽中央クリニックバス旅行参加(2人)

- 27 都議会傍聴(2人)
28 北海道B型肝炎訴訟裁判支援集会(2人)

- 29 無年金障害者をなくす会役員会

- 31 「院内感染予防操作マニュアル」印刷、発送(3人)
「東腎協」No.132発送(3人)
国会請願署名整理

2000年4月

- 2 嬉泉病院ニレ友の会総会出席

- 3 今尾医院会員故西山彰子様ご遺族西山様様。寄附金百万円受領

- 8 東難連運営委員会(2人)

- 8、9 全腎協理事會出席(3)

- 9 第240回常任幹事会開催(27人)

- 14 東京医科歯科大医学生にたいする体験発表(8人)

- 20 東京都医療費助成(マル都)について衛生局訪問(4人)

- 22 障定協総会(2人)

- 23 第28回東腎協総会開催(25人)

- 28 無年金障害者をなくす会総括会議出席

- 29 あけぼの病院総会出席(3人)

2000年5月

- 5 脳移連銀座パレード(6人)

- 6 東難連運営委員会

- 7 町田市腎友会発起人会出席

- 8 三役会議開催(11人)「ぜんじんきょう」No.179発送

- 12 大野ゆり子厚生政務次官に面談、介護保険に透析患者移送の組入れを要望(栗原議員の

- 14 秘書荒井氏紹介(3人)

- 15 第241回常任幹事会開催(29人)

- 有珠山被災会員へのカンパのお願い文発送(2人)

- 19 「肝炎院内感染予防対策の確立のお願い」作成・発送(4人)

- 19 書検討

- 20 無年金障害者をなくす会役員会出席

- 20 東難連講演会「今後の難病対策と介護保険制度の関わりについて」(14人)

- 21 入会呼びかけ：あやせ駅前クリニック、町屋駅前クリニック訪問

- 22 神奈川県EPO訴訟傍聴(2人)

- 22 2001年度東京都予算に關する要望書を医療福祉課へ提出

- 26 「東腎協」No.133発送(3人)

- 27 東京都の「財政再建プラン」、「福祉施策に新たな展開」に反対し、障害者福祉を守り発展させるための学習会に参加(1人)

- 27、28 全腎協鹿児島大会出席

(18人)
赤羽中央病院患者会設立総会
出席(2人)

2000年6月

3 柳原腎クリニック、マル障・マル都説明会(40人)
4 多摩部幹事会(20人)
7 入会呼びかけ：江戸川循環器クリニック、総愛診療所訪問(2人)

8 幸町胃腸病院飯塚事務長・透折室川杉主任来局都庁各局(衛生局、福祉局、労働経済局、事務局、高齢者施策推進室)へ2001年度要望書提出(7人)

11 第24回常任幹事会開催(21人)
17 第8回関東ブロック災害対策推進委員会(4人)
18 青年部ポウリング大会
19 東難連整形外科系難病医療相談会

22 有珠山募金集計
23 第1回学生無年金障害者支援集会実行委員会
24 EPO訴訟を支援する会結成総会出席
24 教宣委員会(3人)

25 区中南部幹事・代表者会議開催(計37人) 区東部学習会開催(108人) 町田市腎友会準備会出席(2人)

2000年7月

29 2001年度東京都予算要請(10人)

1 東難連運営委員会出席
1、2 第47回関東ブロック会議(栃木県)出席(5人)

2 全難連総会出席
7 「ぜんじんきょう」No180発送(4人)
8、9 全腎協相談員研修会出席(2人)

9 第23回常任幹事会開催(26人) 会員拡大・交流委員会(9人) 編集委員会(10人)
11 東京糖尿病協会会長と「腎臓病を考える都民の集い」打合せ(2人)

13 入会呼びかけ・・・芝病院訪問
16 東京・無年金障害者をなくす会第3回総会出席青年部ミーティング(10人)

17 伊豆地震の件で都衛生局に問い合わせ
18 伊豆地震の件で大島腎友会の

中島さんに連絡
19 「学生無年金障害者支援集会」第2回実行委員会
No184発送(3人)

2000年8月

20 区北部交流会(合計54人) 障害年金改正をすすめる会総会(2人)

29 東京都障害者福祉会館ふれあいの祭典実行委員会出席
恒心クリニック患者会結成打合せ(2人) 恒心クリニック患者3人

30 多摩部マル障・マル都勉強会(合計84人)

1 鳥しよの災害で、都・医療計画部救急災害医療課猪原課長補佐に透折患者情報を聞く
3 太田和夫先生と懇談(2人)
6 教宣委員会(3人)

6 地域腎友会交流会(39人)
11 福祉局障害福祉部計画課後藤係長へ電話で抗議「マル障改定通知の内容について」(これまでは自己負担は老人保健に準拠といながら、新たに薬剤一部負担も自己負担になるとの内容に対して)

16 大島腎友会および八丈町立病

院宛お見舞い文作成
17 無年金障害者をなくす会
編集委員会研修会(10人)
20 福糖協との話し合い(2人)

2000年9月

25 腎不全対策協議会改組に関する要望書を特殊疾病対策課古澤係長へFAX
26、27 全腎協青年交流会奥道後(4人)

29 日本医療企画座談会出席(5人)
30 EPO裁判傍聴(2人)

2 東難連運営委員会出席
2、3 全腎協理事會出席(3人) 感染問題他を討議、有珠山災害の募金は1320万円集まる。

5 福祉局、衛生局と面談要望書提出(5人)
8 「ぜんじんきょう」No184発送(2人)

9 都庁職2001年予算についての都民団体交流集会(5人)

10 第24回常任幹事会開催午前から(23人)
透折医療対策」に午後出席(2

- 人)
- 11 無年金実行委員会出席
- 17 第45回幹事会・学習交流会開催 (146人)
- 18 無年金学生障害者支援集会出现 (2人)
- 23 全腎協理事会出现
- 2000年10月
- 1 第245回常任幹事会開催 (26人)
- 7 都・衛生局予算要求都民懇談会出席 (4人)
- 8 臓器移植キャンペーン：都内5カ所、207人、臓器提供意思表示カード33、000枚配布
- 12 都議会・共産党・公明党ヒアリング出席 (6人) 都議会他会派へ要望書提出 (2人)
- 14 JPC街頭署名
- 18 EPO裁判第4回公判出席 (2人)
- 19 都議会民主党ヒアリング出席 (7人)
- 21 全腎協総会出席 (2人)
- 22 市民公開講座「臓器移植法施行後3年を迎えて」日本移植学会、臓器移植推進連絡会共催 (3人)

- 23 東京都障害者連絡協議会出席
- 27 「東腎協」No135発送 (4人)
- 28 教宣委員会 (4人)
- 28 29 関東ブロック青年交流集会出现 (10人)
- 29 東部ブロック会員交流会 (35人)
- 2000年11月
- 2 都職労あて、全腎協国会請願署名協力をお願い文作成
- 5 青年部第2回学習交流会開催 (22人)
- 7 多摩ブロックバス旅行 (40人)
- 7 施設オンブズマン連絡会・グループ相談出席
- 9 オンブズマン第三者評価のヒアリング
- 10 「ぜんじんきょう」No182発送 (3人)
- 11 石原都知事の平成13年度予算案に対する障害者の緊急要求集会 (3人)
- 12 東糖協講演会出席 (2人)
- 12 第246回常任幹事会開催 (25人) 会員拡大・交流委員 (6人) 編集委員会 (6人)
- 15 JPC国会請願要請議員へのあいさつ (2人)

- 16 全腎協国会請願再提出行動 (5人)
- 19 個人会員交流会 (59人) 編集委員会 (7人)
- 20 JPC国会請願行動 (7人)
- 23 全腎協、万有製薬等共催のシンポジウム「腎臓病と共に」出席
- 24 民主党和田宗春都議紹介、都衛生局と話し合い (4人)
- 25 26 全腎協理事会出现
- 26 区中南部幹事会 (18人)
- 28 東京・無年金者をなくす会「公開審査」傍聴 (1人)
- 30 都・特殊疾病対策課古澤課長補佐訪問 都・福祉局計画課訪問 (5人)
- 2000年12月
- 2 3 全腎協通院介護交流会出席 (6人)
- 3 区北部幹事及び役員会 (29人)
- 4 EPO公判傍聴 (2人)
- 8 都庁を囲む「人間のくさり」に参加 (14人)
- 9 都職労の都・衛生局予算要求都民懇談会出席
- 9 10 全腎協関東ブロック千葉会議出席 (6人)

- 10 江東区難病団体結成総会出席 (2人)
- 13 入会呼びかけ：緑風会病院訪問 (2人)
- 14 多摩南部地域病院要請訪問 (4人)
- 16 無年金の会総括会議出席
- 17 青年部座談会 (7人)
- 17 第247回常任幹事会開催 (25人)
- 18 入会呼びかけ：芝病院訪問
- 19 福祉局へ全腎協30周年助成金の交付要請行動 (7人)
- 21 衛生局へ「災害時における透析医療活動マニュアル」の改訂版作成に向けての要請 (5人)
- 21 羽村相互診療所訪問
- 24 大掃除 (6人)
- 27 国会請願用紙整理
- 2001年1月
- 5 「ぜんじんきょう」No183発送 (3人)
- 8 「腎臓病を考える都民の集い」朝日新聞に掲載され電話受け付け
- 14 第248回常任幹事会開催 (23人)
- 16 入会呼びかけ：高尾もみじ会

- 23 「障害者福祉を守り、発展させるための2001年度東京
- 21 入会呼びかけ：井口病院、綾瀬駅前クリニック訪問（2人）
- 18 12 障都連都民集会参加
第249回常任幹事会開催（23人）
- 7 EPO訴訟第6回口頭弁論傍聴（2人）
- 5 入会呼びかけ：中目黒クリニック訪問（2人）
- 4 「腎臓病を考える都民の集い」開催（270人）
- 2 NHK「いっとろっけん」で「腎臓病を考える都民の集い」が放映され電話受付
- 28 27 26 「東腎協」No.136発送（4人）
国会請願署名・募金最終整理
青年部新年会開催
- 23 「腎臓病を考える都民の集い」の打合せで順天堂大学教授富野教授訪問（2人）
- 21 区中南部交流会（21人）区東部幹事・役員交流会（合計20人）

2001年2月

- 27 都算をめぐる学習交流会出席（2人）
東京都障害者団体連絡協議会
都職労「都立病院改革問題についてのシンポジウム」参加（2人）

記念講演



「21世紀腎不全治療の展望」

——合併症とその予防——

講師 東京女子医科大学腎臓病総合医療センター
血液浄化部門 教授 秋葉 隆

よりよい透析ライフを送るために

21世紀は、透析歴20年、30年の長期透析患者がますます増加する時代になります。もう透析それ自体では亡くならない。怖いのは、それに伴う各種の合併症であるといわれるほどです。

医学の世界では、「証拠に基づく医療」という言葉が強調されています。この言葉は、しっかりした

証拠をつかんだ上で、治療内容を高めようということです。私たち患者本位の理想的な透析治療を指すものです。

今回は、質の高い透析治療を求めて、活躍されています秋葉先生に透析者なら誰もが不安に思っている透析の合併症とその予防について講演していただきます。

充分な透析と自分の身体は自分で守るんだという自覚で、よりよい透析ライフを送りましょう。

2000年度国会請願署名・募金集計表

2001/3/12

| No. | 会名 | 全腎協 | JPC | 募金額 | No. | 会名 | 全腎協 | JPC | 募金額 |
|-----|---------------|-------|-------|---------|-----|---------------|-------|-------|---------|
| 1 | 愛和腎友会 | 970 | 968 | 45,060 | 60 | 東高円寺フエニツク友会 | 833 | 839 | 26,400 |
| 2 | 青山会 | 60 | 58 | 3,000 | 61 | 聖橋クワニツク腎友会 | 583 | 589 | 35,040 |
| 3 | あけぼの友の会 | 969 | 982 | 50,000 | 62 | 福生病院こども会 | 450 | 441 | 46,800 |
| 4 | あけぼのクワニツク友の会 | 749 | 754 | 43,800 | 63 | 府中けやき会 | 440 | 441 | 25,900 |
| 5 | 飯田橋クワニツク腎友会 | 622 | 619 | 15,000 | 64 | 豊生会 | 949 | 950 | 60,000 |
| 6 | 拓橋駅前坂友会 | 90 | 90 | 20,000 | 65 | 望星田無友の会 | | | |
| 7 | 稲城市立病院腎友会 | 196 | 196 | 6,000 | 66 | 保谷腎友会 | | | |
| 8 | 今尾医院腎友会 | 730 | 730 | 16,860 | 67 | 町谷原クワニツク腎友会 | 97 | 87 | 6,600 |
| 9 | 入谷クワニツク腎友会 | 312 | 288 | 28,000 | 68 | 松村クワニツクすみれ会 | 300 | 300 | 32,500 |
| 10 | 上野しのばす会 | 930 | 930 | 69,000 | 69 | 瑞江腎クワニツク腎友会 | 328 | 331 | 21,000 |
| 11 | 大田病院腎患者会 | 521 | 460 | 36,300 | 70 | 三鷹北口病院腎友会 | 568 | 578 | 30,400 |
| 12 | 大橋クワニツク友の会 | 170 | 180 | | 71 | 南大沢パオレ腎友会 | 272 | 272 | 22,500 |
| 13 | 大山腎友会 | 497 | 497 | 15,000 | 72 | 南千住病院河童会 | 35 | 28 | 10,000 |
| 14 | 小笠原クワニツク友の会 | 879 | 868 | 76,140 | 73 | 南多摩病院のばら会 | 1,072 | 1,045 | 62,000 |
| 15 | 菊川橋クワニツク腎友会 | 358 | 357 | 52,900 | 74 | 桑の実会(明神町) | 610 | 620 | 54,960 |
| 16 | 壺泉病院ニール友の会 | 3,364 | 3,398 | 241,000 | 75 | 武蔵境駅前クワニツク腎友会 | 371 | 371 | 53,900 |
| 17 | 北多摩病院腎友会 | 301 | 301 | 13,000 | 76 | 村上医院ひまわり会 | 320 | 320 | 69,010 |
| 18 | 北病院腎友会 | 990 | 960 | 12,000 | 77 | 森山病院友の会 | 2,420 | 2,420 | 154,660 |
| 19 | 吉祥寺あさひ腎友会 | 1,303 | 1,306 | 116,660 | 78 | 大和病院透折友の会 | 399 | 405 | 30,780 |
| 20 | 埴南クワニツク患者会 | 123 | 128 | 12,960 | 79 | 湯島腎友会 | 70 | 70 | 8,000 |
| 21 | 杏林腎友会 | 674 | 684 | 20,000 | 80 | 代々木病院腎友会 | 780 | 772 | 47,130 |
| 22 | くにたち桜会 | 284 | 290 | 21,600 | 81 | 柳原健腎会 | 281 | 271 | 62,400 |
| 23 | 薫風園腎友会 | 60 | 60 | 20,000 | 82 | 天神橋クワニツク腎友会 | 693 | 715 | 60,960 |
| 24 | 江東橋腎友会 | 335 | 322 | 11,500 | 83 | 長谷川病院腎友会 | 176 | 166 | 5,000 |
| 25 | 国分寺こやま腎友会 | 781 | 759 | 49,000 | 84 | 十条腎和会 | 512 | 512 | 10,680 |
| 26 | 国分寺南口クワニツク観光会 | 38 | 38 | 8,000 | 85 | 腎友会サンクラブ | | | |
| 27 | サボテン会 | 550 | 560 | 32,700 | 86 | 立川北口駅前腎友会 | 380 | 380 | 18,000 |
| 28 | 松和患者会西新宿支部 | 794 | 835 | 86,640 | 87 | 貴友会王子病院友の会 | 130 | 130 | 17,000 |
| 29 | 松和患者会目白支部 | 296 | 316 | 13,800 | 88 | 三軒茶屋病院腎友会 | 775 | 795 | 45,600 |

| | | | | | | | | |
|----|---------------|-------|-------|---------|-------------------|--------|--------|-----------|
| 30 | 新小岩クリニツク友の会 | 2,197 | 2,153 | 55,000 | 89 聖路加ニール会 | 506 | 509 | 10,000 |
| 31 | 新宿水明クリニツク腎友会 | | | 10,000 | 90 小豆沢病院透析科の会 | 126 | 126 | 5,000 |
| 32 | 新松山病院友の会 | 375 | 369 | 39,240 | 91 岩本町腎クリニツク友の会 | 42 | 50 | 15,200 |
| 33 | 腎研友の会 | 876 | 886 | 45,000 | 92 佐田友の会 | 120 | 120 | |
| 34 | 人工腎臓虎の門・高津会 | 1,377 | 1,363 | 120,000 | 93 阿佐ヶ谷すずき腎友会 | 686 | 673 | 61,440 |
| 35 | すずらん腎友会 | 419 | 416 | 37,800 | 94 博慈会腎クリニツクあしたば会 | | | |
| 36 | 聖蹟さくら会 | 718 | 699 | 40,860 | 95 深川橋クリニツク腎友会 | 489 | 493 | 30,000 |
| 37 | 高中腎友会 | 202 | 197 | | 96 大島腎友会 | 190 | 190 | 13,020 |
| 38 | 高松病院患者会 | 276 | 274 | 39,000 | 97 小池会 | 129 | 131 | 12,000 |
| 39 | 竹口病院腎友会 | 719 | 710 | 32,490 | 98 緑本病院腎友会 | 239 | 247 | 29,220 |
| 40 | 立川相互腎クリニツク希望会 | 810 | 816 | 60,600 | 99 赤羽中央病院腎友会 | 152 | 163 | 12,000 |
| 41 | 立花クリニツク友の会 | 518 | 518 | 55,626 | 100 谷中三和クリニツク腎友会 | 55 | 75 | 10,600 |
| 42 | 昭島腎クリニツクひまわり会 | 893 | 904 | 99,870 | 101 みさと健腎会 | | | |
| 43 | 調布病院腎友会 | 896 | 901 | 38,500 | 患者会合計 | 48,999 | 48,613 | 3,382,346 |
| 44 | 調布東山クリニツク腎友会 | 531 | 527 | 84,100 | 1 青梅市立病院 | 311 | 316 | 24,830 |
| 45 | 鶴田クリニツク友の会 | 569 | 569 | 31,200 | 2 相武台ニールクリニツク | 100 | 100 | |
| 46 | 帝京大学病院腎友会 | 130 | 120 | 13,000 | 3 月島サリア腎友会 | | | |
| 47 | 東海病院ひまわり会 | 350 | 410 | 13,000 | 4 東葛クリニツク小岩 | 40 | 40 | 2,000 |
| 48 | 東京共済病院腎友会 | | | | 5 西クリニツク(武田G) | 624 | 631 | 64,090 |
| 49 | 東京厚生年金病院腎友会 | 35 | 24 | 52,920 | 6 西村山診療所 | 30 | 30 | 13,000 |
| 50 | 東大病院腎友会 | 695 | 673 | 21,500 | 7 西クリニツク(新山G) | | | |
| 51 | 中野クリニツク | 226 | 225 | | 8 高尾もみじ会 | 230 | 230 | 10,800 |
| 52 | 中目黒クリニツク腎友会 | | | | 9 田端駅前クリニツク | 10 | 10 | 2,000 |
| 53 | 長久保クリニツク腎友会 | 490 | 489 | 28,500 | 10 八木内科 | 100 | 100 | 3,000 |
| 54 | 山田クリニツク腎友会 | 150 | 150 | 17,000 | 11 町屋駅前クリニツク | | | |
| 55 | 西新井病院腎友の会 | 440 | 440 | 50,000 | グループ合計 | 1,445 | 1,457 | 119,720 |
| 56 | 西口21友の会 | | | | 個人会員合計 | 1,770 | 1,601 | 325,700 |
| 57 | 日伸ビルクリニツク腎友会 | | | | 渋谷区職労 | 199 | | |
| 58 | 羽村相互たんぼの会 | 290 | 289 | 20,300 | 自治労都職労 | 13,088 | | |
| 59 | 秋葉原腎クリニツク腎友会 | 293 | 303 | 25,200 | 総合計 | 65,501 | 51,671 | 3,827,786 |

二〇〇一年度スローガン(案)

- 一、腎臓病の予防、治療、研究から社会復帰にいたる腎疾患総合対策の確立を！
- 二、自己負担の増大につながる医療保険抜本改革は止め、誰でもが安心して受けられる医療制度の確立を！
- 三、心身障害者医療費助成制度の復活と医療・福祉施策のますますの発展を！
- 四、通院が困難な透析患者への移送サービス実現を！
- 五、臓器提供意思表示カードの普及と献腎移植の推進を！
- 六、働ける腎機能障害者に職場復帰の道を！
- 七、区市町村での医療・福祉の充実を！
- 八、地震などの災害時における緊急透析体制の早期確立を！
- 九、医療ミスの予防と感染予防の徹底を図り、安心して受けられる透析医療の実現を！
- 十、活動内容を充実し、すべての腎疾患患者の結集を！